

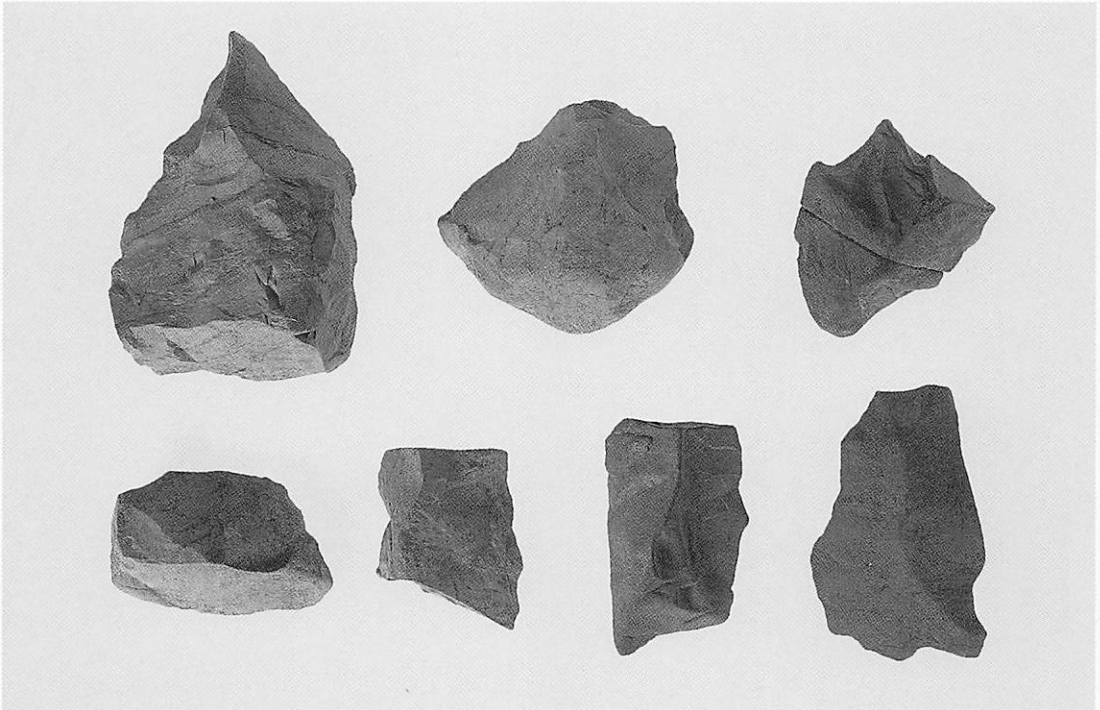
# 長野県埋蔵文化財センター一年報18

2001

財団法人長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター



更埴市 八幡遺跡群社宮寺遺跡 六角木幢(笠)の出土状況



飯田市 竹佐中原遺跡出土石器 (左上・長さ12.2cm)

# 序

長野県内全域に渡っての埋蔵文化財発掘調査事業を引き受けて参りました当センターは、本年も、国営公園関連、高規格道路関連、国道バイパス関連、県営圃場整備関連、県道改良関連、農道整備関連など、多様な公共事業に対応して調査を実施致しました。調査遺跡は新潟県境から静岡・愛知県境近くまで広域におよぶことになりました。後期旧石器時代を遡る可能性がある竹佐中原遺跡の石器群、仲町遺跡のナウマン象の足跡、日本で初発見の社宮寺遺跡の六角木幢など、社会的な注目を集める遺跡に数多く遭遇し、新聞紙面を飾る回数も増え、大きな成果を上げることができました。

市町村等の埋蔵文化財調査に対する調査研究員の派遣や、出土遺物の保存処理なども例年どおり実施し致しました。普及・公開活動としては、本年度も長野県立歴史館や長野県民文化会館を会場とし、市町村教育委員会の調査資料も含めた企画展を開催し、それに関連した講演会なども実施致しました。県民に親しまれるよう、普及活動には今後も力を注ぐ所存です。

本書は平成13年度に当センターが実施した事業の概要をまとめたものです。ご参考となれば望外の喜びです。

日頃より当センターの事業にご協力・ご指導いただいている関係各位にお礼申し上げますとともに、一層のご支援をお願いする次第です。

平成14年3月

長野県埋蔵文化財センター

所長 深瀬 弘夫

# 目 次

## 口絵写真

八幡遺跡群社宮寺遺跡六角木幢笠の出土状況 (上)

竹佐中原遺跡出土石器 (下)

## 序

## 目次

I 発掘調査及び整理作業の概要……………	1	11 箕輪遺跡群……………	20
1 仲町遺跡……………	3	12 丸山遺跡……………	22
2 吹野原A遺跡……………	8	13 川路大明神原遺跡……………	24
3 八幡遺跡群社宮司遺跡ほか……………	9	14 竹佐中原遺跡および飯田市山本地区 諸遺跡……………	26
4 力石条里遺構群……………	12	II 普及・公開活動の概要	
5 上五明条里水田址……………	13	1 現地説明会……………	31
6 鎌田原遺跡……………	14	2 展示会等……………	32
7 矢出川遺跡群……………	15	3 指導・研究会・学習会……………	33
8 山の神遺跡ほか……………	16	4 刊行物……………	33
9 聖石遺跡・長峰遺跡……………	18	III 機構・事業の概要	
10 馬捨場遺跡……………	19	1 機構……………	34
		2 事業……………	34
		平成13年度役員及び職員……………	38



## I 発掘調査及び整理作業の概要

平成13年度の発掘調査は国道バイパス関連・国営公園関連・高規格道路関連・高速道路関連・県単道路改良事業関連・畑地帯総合整備事業関連・広域営農団地農道整備事業関連・県単農道整備事業関連の諸遺跡を対象とした。整理作業は担い手育成基盤整備事業関連・緊急地方道整備事業関連・国営公園関連・広域営農団地農道整備事業関連・県単道路改良事業関連を対象とした。

発掘調査のうち11遺跡は記録保存の本格調査、9遺跡は確認調査である。記録保存調査のうち仲町遺跡、馬捨場遺跡、箕輪遺跡、大明神原遺跡、竹佐中原遺跡が昨年来の継続調査、それ以外は新規の遺跡である。確認調査のうち力石条里遺構群、鎌田原遺跡、肩平遺跡、まねき遺跡、国道474号関連遺跡の大半は、規模はともかくも遺構・遺物が発見され、来年度以降に記録保存が必要なことが判明した。

上五明遺跡と馬捨場遺跡の整理作業は印刷・刊行まで完了し、残りの遺跡は年次計画にしたがって来年度以降の印刷・刊行とした。

以下、実施事業の概要を一覧表に示す。

### [発掘調査]

#### 国道18号野尻バイパス関連

所在地	遺跡名	対象面積 m <sup>2</sup>	契面積 m <sup>2</sup>	約面積 m <sup>2</sup>	調査面 積 m <sup>2</sup>	調査延 面積 m <sup>2</sup>	調査期間	調査 頁数	調査 状況	主な検出遺構	主な出土遺物	残調査 面積m <sup>2</sup>
信濃町	仲町	16,960	9,600	4	23,000	13/4/23 ~13/12/4	7	継続	旧石器時代ブロック 中世~近世集落	ナイフ形石器等 縄文創草期土器	1,000	

#### 県単道路改良関連

信濃町	吹野原A	800	1,600	2	1,600	13/9/13 ~13/11/26	2	終了	旧石器時代ブロック	ナイフ形石器、台形 石器、石刃等	0
-----	------	-----	-------	---	-------	----------------------	---	----	-----------	---------------------	---

#### 国道18号上田-篠ノ井バイパス関連

更埴市	八幡 遺跡群	50,000 以上	10,000	1	10,595	13/4/17 ~13/12/20	6	終了	平安時代集落、溝、 流路	平安時代土器、二彩 陶器、六角木椀、 習書木簡等	0
-----	-----------	--------------	--------	---	--------	----------------------	---	----	-----------------	--------------------------------	---

#### 県道長野上田線力石バイパス関連

上山田町	力石条里 遺構群	未定	260	1	260	13/12/5 ~13/12/17	2	継続	土坑、畦畔、溝	縄文土器、弥生土器 中近世陶磁器、石器	未定
------	-------------	----	-----	---	-----	----------------------	---	----	---------	------------------------	----

#### 中部横断自動車道関連

小諸市	鎌田原	13,000	4,000	1	4,000	13/12/3 ~13/12/21	2	継続	古墳時代集落	古墳時代前期土器等	9,000
-----	-----	--------	-------	---	-------	----------------------	---	----	--------	-----------	-------

#### 畑地帯総合整備事業関連

南牧村	矢出川	未定	1,900	1	1,900	13/10/16 ~13/11/20	2	継続	土坑	黒曜石剥片	未定
-----	-----	----	-------	---	-------	-----------------------	---	----	----	-------	----

国営アルプスあづみの公園関連

所在地	遺跡名	対象面積 ㎡	契面積 ㎡	約積 ㎡	調査面 積 ㎡	調査延 面積 ㎡	調査期間	調査 頁数	調査 状況	主な検出遺構	主な出土遺物	残調査 面積㎡
大町市	肩平	10,000	640	1	640	13/10/10 ~13/10/23	2	継続	土坑			未定
	まねき	4,400	1,355	1	1,355	13/11/27 ~13/11/28	2	継続	土坑			未定

広域営農団地農道整備関連

茅野市	馬捨場	11,500	1,000	1	1,000	13/4/16 ~13/5/22	2	終了	旧石器時代ブロック 縄文中期集落	尖頭器、削器、 縄文早期~後期土器 等	0
-----	-----	--------	-------	---	-------	---------------------	---	----	---------------------	---------------------------	---

国道153号伊那バイパス関連

箕輪町	箕輪	36,000	11,250	3	13,000	13/4/5 ~14/1/11	4	継続	弥生時代~近代	弥生土器、古墳時代 土器、磨製石斧、 杭、農具	2,500
-----	----	--------	--------	---	--------	--------------------	---	----	---------	-------------------------------	-------

農道整備事業本郷地区関連

飯島町	丸山	4,100	4,100	1	4,100	13/5/9 ~13/10/9	4	終了	縄文時代中期集落	縄文土器、土偶、 石器、石棒等	0
-----	----	-------	-------	---	-------	--------------------	---	----	----------	--------------------	---

国道474号飯番道路関連

飯田市	大明神原	75,000	14,110	1	14,110	13/4/23 ~13/12/21	3	継続	縄文中期集落、 陥穴、土坑	縄文土器、土偶、 石器等	15,000
	竹佐中原	69,200	6,500	1	6,500	13/7/4 ~12/12/25	3	継続	中期旧石器ブロック 平安時代集落	縄文土器、打製石斧	58,800
	山本西平	4,400	800	1	800	13/5/21 ~13/12/21	3	継続	近世溝、流路	近世陶器	2,000
	辻原	18,200	900	1	900	13/5/7 ~13/12/21	3	継続	旧石器時代礫集中、 土坑		5,900
	赤羽原	5,900	200	1	200	13/5/16 ~13/12/21	3	継続			4,400
	山本大塚	6,400	1,400	1	1,400	13/6/25 ~13/12/21	3	継続	土坑、風倒木跡	縄文土器	4,200
	並松	7,200	200	1	200	13/6/1 ~13/6/13	2	継続		縄文土器、石器	6,800
	森林	18,800	1,300	1	1,300	13/7/4 ~13/12/25	3	継続			14,900
	下り松	10,200	5,700	1	5,700	13/8/2 ~13/12/19	3	継続	溝、流路	縄文土器、石器	4,500

【整理作業】

事業別	所在地	遺跡名	作業内容
県単道路改良	信濃町	吹野原A	接合・実測
緊急地方道整備	坂城町	上五明	印刷・刊行
国営アルプスあづみ野公園整備	大町市	山の神ほか	接合・実測
担い手育成基盤整備事業	茅野市	聖石、長峰	接合・実測
広域営農団地農道整備	茅野市	馬捨場	接合・実測・印刷・刊行

## 1 <sup>なかまち</sup>仲町遺跡 (国道18号野尻バイパス関連)

所在地：上水内郡信濃町大字野尻字一盃清水  
調査担当者：鶴田典昭、白田広之、西山克己、伊藤友久、  
市川桂子、山崎まゆみ、中島英子

調査期間：平成13年4月23日～12月4日

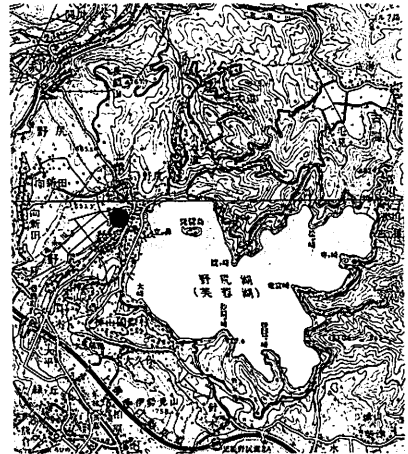
調査面積：9,600㎡

遺跡の立地：丘陵上の平坦面及び低地に向かう斜面部

検出遺構：旧石器時代ブロック・礫群・炭化物集中、  
ナウマンゾウとオオツノシカの足跡。縄  
文時代草創期の炉跡。中世の掘立柱建物  
跡群。近世野尻宿関連の遺構

出土遺物：旧石器時代・縄文時代草創期を中心とし  
た石器群。縄文時代草創期～晩期の土器。

古墳時代、奈良・平安時代、中世の土師器、須恵器、陶磁器類。古墳時代と思わ  
れる木製品。中近世の古銭。

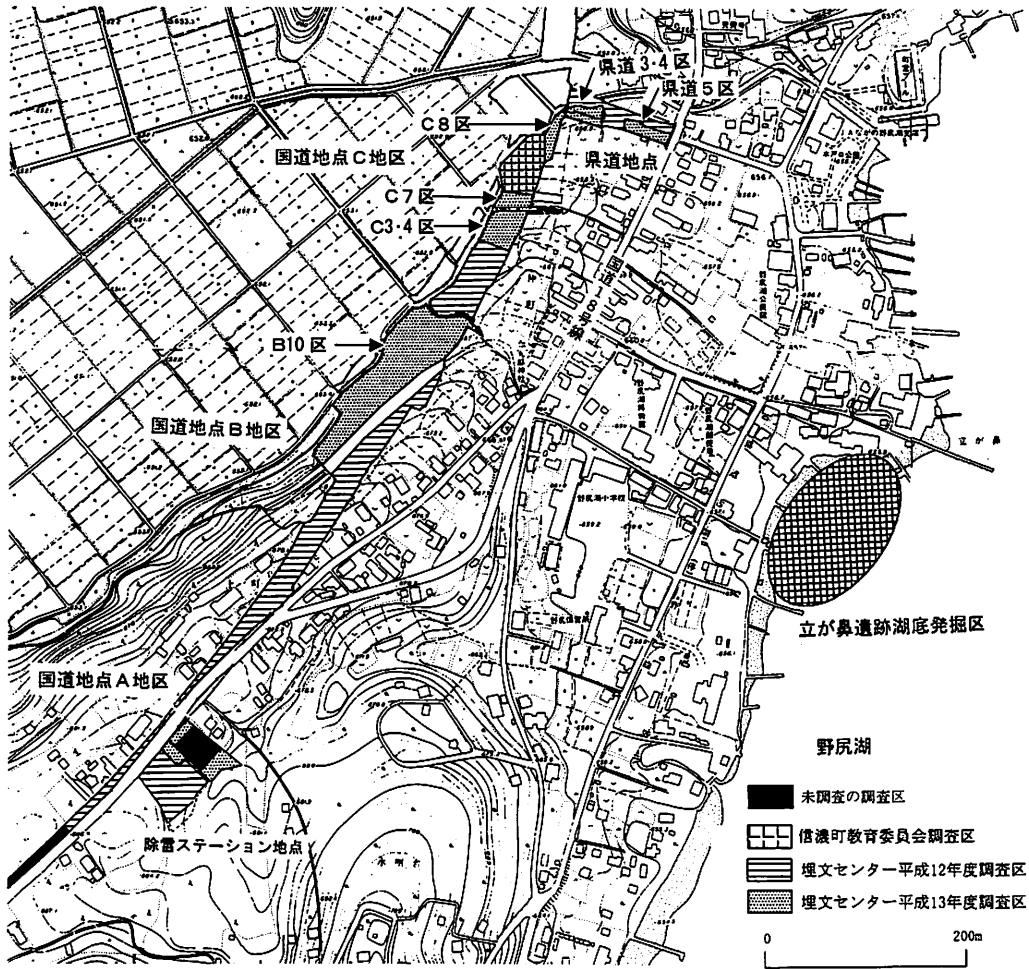
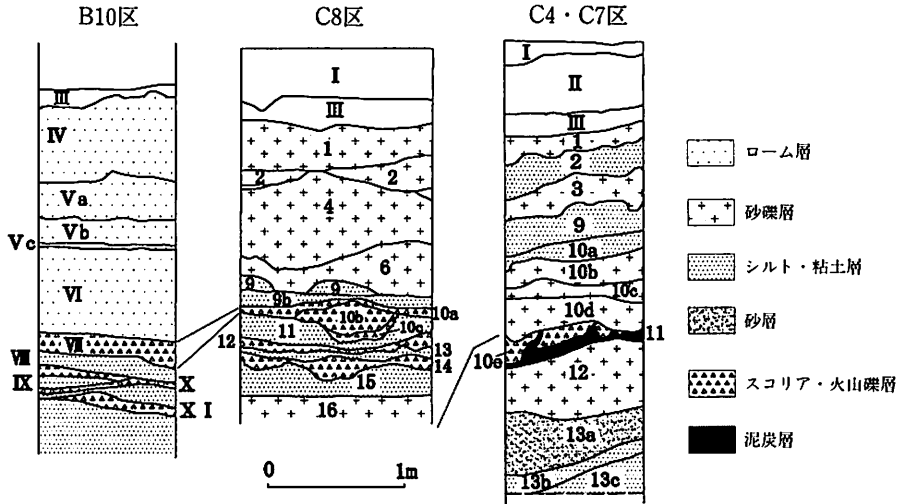


第1図 仲町遺跡の位置 (1:100,000)

**調査の概要：**調査区を、除雪ステーション地点、国道地点、県道地点の3地点に分け、各地  
点毎に、調査工程に沿って調査地区を細分した。平成13年度は、除雪ステーション6・7・8  
区、国道B10区、国道C3・4・7・8区、県道3・4・5区の調査を実施した(第2図)。  
なお、国道C7区とC8区の間が信濃町教育委員会の調査区である。

除雪ステーション地点は丘陵上の平坦部、国道B10区は一段下がったテラス状の緩斜面、国  
道C3・4・7・8区、県道地点は、仲町丘陵の北端部の低地に面した場所である。除雪ステ  
ーション地点・国道B10区はローム層中に石器群が出土するのに対し、国道C3区から県道地  
点にかけては、シルト、砂礫などの水成堆積層に遺物が包含されており、遺跡の様相がまった  
く異なる。後者の遺物は原位置を保っている場合が少なく、磨耗した石器が出土する。なお、  
各地区の土層の堆積状況が異なるため、地区ごとに基本土層を定め、ローマ数字を遺跡全体共  
通の土層名とし、算用数字は地区ごとの固有の層名とした(第2図)。以下に地区ごとの概要  
を記す。なお、除雪ステーション地点では、尖頭器を含むブロックが1箇所検出されたが、主  
要部分は平成14年度の調査となる。

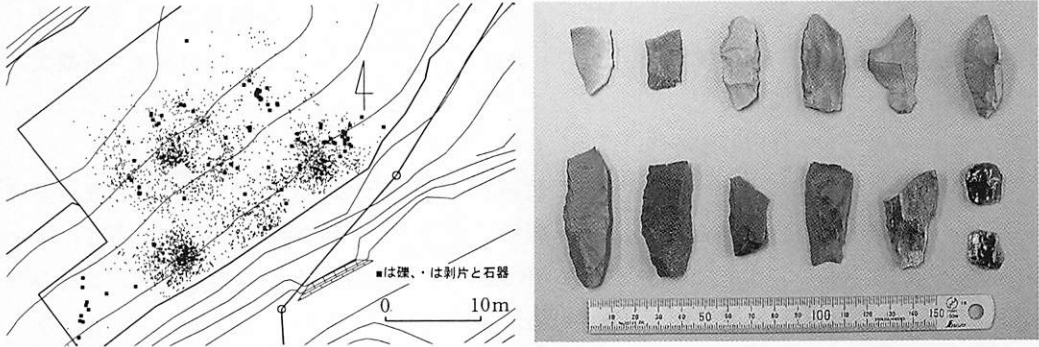
**国道地点B10区：**Vb層中(AT以前)に生活面をもつ、環状ブロック群が確認された(第  
3図)。低地に望む緩斜面の平坦部に、4,000点余りの遺物が出土しており、斧形石器8点、台  
形石器10点、砥石1点、台石2点、敲石7点などが含まれる。環状ブロック群は約20m×29m  
の範囲に遺物が分布し、南東側の一部を除いてほぼ全体を調査したと思われる。これらのブ  
ロック群の上層(IV層)に、槍先形尖頭器を含むブロックが1箇所検出された。



第2図 仲町遺跡の調査範囲と国道地点の土層

国道地点C 3・4・7区：国道C 3区では東西方向に尾根状の張り出した地形がみられ、その尾根の北側に河川堆積物と考えられる砂礫層が分布する。遺物を包含する砂礫層は県道3・4区まで分布しており、旧石器時代～縄文時代早期の遺物が出土する。縄文時代草創期から早期にかけて、砂礫層の分布域は県道地点側へと縮小しており、縄文時代早期末以降は砂礫層の堆積は見られなくなる。これは、仲町丘陵の隆起により、現在の野尻湖からの砂礫の押出しが停止したためと考えられる。

遺物はIII層と1～10b層中に出土する。1層は細石器と縄文時代草創期の包含層である。C



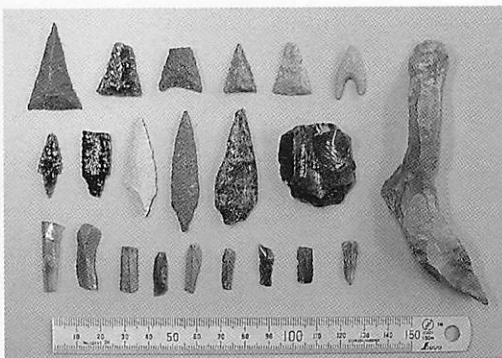
第3図 B10区V層の環状ブロック群と石器



第4図 国道C 4区SQ03の土器群



第5図 国道C 4区SQ03の石器群



第6図 国道C 7区I層出土の石器群



第7図 県道3・4区出土の石器群

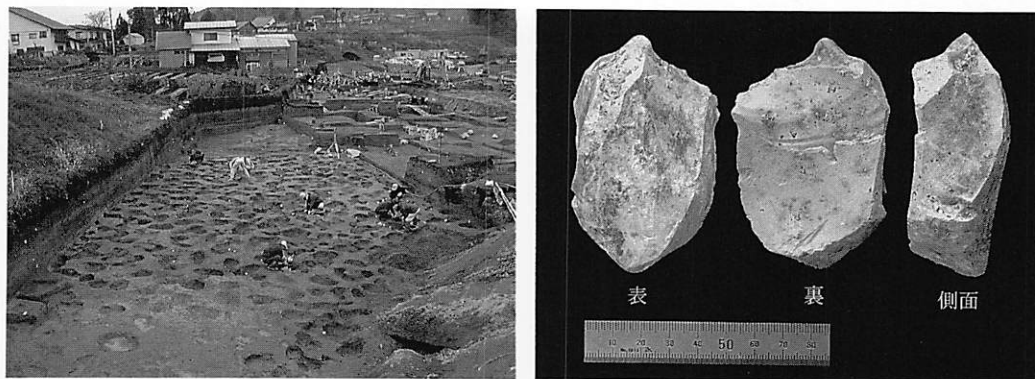
4区ではIII層から1層にかけて、草創期の円孔文、隆起線文、爪形文土器の遺物集中区(SQ03)と炉跡状の遺構が確認され(第4・5図)、C7区では細石刃が多く出土した(第6図)。C7区の東端部に見られる粘土層中に炭化物と礫群が確認され、同層中より細石核が1点出土した。3層~10b層の砂礫層では石器が多数出土したが、いずれも二次堆積物であり、ブロックのような有意なまとまりは確認できなかった。10c層以下からは、安山岩の石片が出土したが、石器又は剥片と断定できる資料は出土していない。

**国道地点C8区、県道地点3・4区**：砂礫層中より多量の遺物が出土したが、いずれも二次堆積物である。1・2層は縄文時代草創期・早期の遺物の包含層で、県道地点3・4区を中心に9,000点の遺物が出土した。特に草創期の石器群が多量に出土したが、隆起線文、多縄文、爪形文、表裏縄文系土器群の他、早期の押型文、沈線文系土器群などの遺物群が混在している(第7図)。4層~6層は旧石器時代の遺物包含層である。

柱状図に示した土層の10層~14層が中部野尻湖層に対比される。C8区南半では、9層~14層を削り砂礫層(8層)が堆積する。この砂礫層は、これまで中部野尻湖層に対比され、へら形石器、基部加工剥片、スクレイパーなどの出土遺物が報告されていたが(註1)、これらの石器の出土層位は上部野尻湖層IIに対比されることが確認された。

また、C8区の11層(砂質シルト)上面で、ナウマンゾウの足跡がC8区ほぼ全域に検出され、その覆土の10層中および10層下面から、約250点の安山岩と1点の酸性凝灰岩の石片が出土した。石片が出土する足跡は、調査区全域に分布し、特にまとまった分布は示さない。また、NF3とした足跡の底面から酸性凝灰岩製の石器の可能性のあるものが出土した。10層は赤スコ(B10区基本土層VII層)の水成堆積層で、中部野尻湖層の最上層である。野尻湖底の木材および骨の年代測定により、中部野尻湖層の年代は39,000年B.P.~41,000年B.P.(註2)とされている。

上記の中部野尻湖層に対比される10層の出土品の中には、石器または剥片と思われる形状のものが含まれており、石器が含まれていると指摘されている。しかし、偽石器であるとの意見もあり、人工品であるか否か、現時点では判断できない。11層~14層までを掘り下げたところ、10層(赤スコ)のものと同質の安山岩の石片が多数出土し、さらにB10区でもVI層下部からX

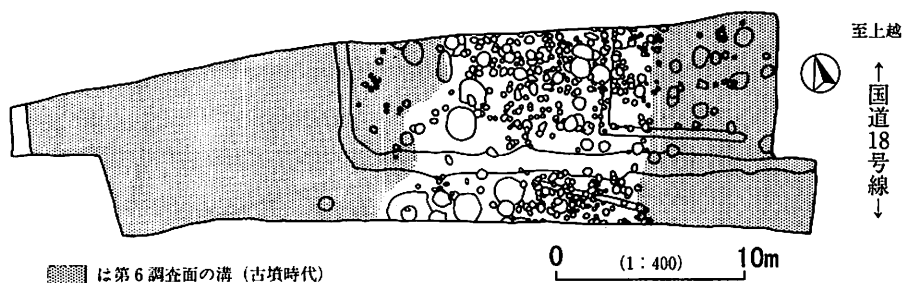


第8図 C8区11層上面のナウマンゾウの足跡と酸性凝灰岩製の出土遺物

I層にかけて同質の安山岩片が多数出土したことから、安山岩は自然状態で中部野尻湖層に含まれていた、すなわち、火山噴出物として飛ばされてきた、と考えられる。しかしながら、安山岩の中には剥片の形状を示し、微細な剝離を持つものも存在しており、石器として利用した可能性も考慮しておかなければならない。また、酸性凝灰岩は10層中では第8図の出土品のみであり、11層中にわずかに同質の石材の石片が認められるものの、火山噴出物として飛来してくる可能性があるかどうか不明である。繰り返しになるが、C8区中部野尻湖層相当層の出土品は、石器か偽石器かは断定できない。これらが石器であるとする良好なブロックがVII層(赤スコ)より下層に存在するはずである。その発見をまって、これらの出土品についての正しい評価ができると考えている。

県道5区：自然堆積及び人為的な土盛と整地の繰り返しにより、複数の生活面及び包含層が確認され、6面の調査面がある。深い所で地表下2mに達する。第1～第3調査面は近世～中世で、複数の整地面が確認された。これらの整地面上には、野尻宿関連の遺構と中世の掘立柱建物の柱穴が多数発見された(第9図)。第6調査面では南北方向に延びる溝が2条確認され、古墳時代中期の遺物が包含されていた。さらに、東端部の窪み(SX107)からは木製遺物が多量に出土し、漆塗りの刀子柄、櫛形の木製品などの製品が見られる。これらは伴出土器より古墳時代後期初頭と考えられる。調査区西半部では、更に下層に縄文時代後期～晩期の遺物包含層がある。近隣より流出した遺物と判断しているが、野尻湖周辺では当該期の希少な資料である。

また、信濃町における古墳時代の資料は、隣接する川久保遺跡(註3)と仲町遺跡県道地点より出土したものが大半を占めており、遺跡の希少性を考えると、善光寺平と上越地域との交通を考える上で重要な資料である。



第9図 県道5区の中近世の遺構と古墳時代の溝

- 註1 野尻湖人類考古グループ 1996 「仲町遺跡 第7回陸上発掘の成果」『野尻湖博物館研究報告第4号 野尻湖の発掘7』
- 註2 沢田健・有田陽子・中村俊夫・秋山雅彦・亀井節夫・中村信之 1992 「加速器質量分析計を用いた14C年代測定による野尻湖層の編年」『地球科学』46-2
- 註3 長野県埋蔵文化財センター 1999 「長野県埋蔵文化財センター年報」16

## 2 吹野原 A 遺跡（県道整備事業関連）

所在地：長野県上水内郡信濃町大字古間字吹野

調査担当者：谷 和隆

調査原因：県道古間停車場線の拡幅事業に伴う発掘調査

西山克己

調査期間：平成13年9月13日～同年11月26日

調査面積：延べ1,600㎡

遺跡の立地：丘陵上

遺跡の特徴：旧石器時代、始良丹沢火山灰降灰以前の石刃石器群

主な検出遺構：ブロック11、礫群3、陥し穴5

主な出土遺物：ナイフ形石器、台形石器、斧形石器、石刃

調査の概要：野尻湖の南西約2km、鍋山から北にのびる尾根上に位置している。信濃町教委員会が調査した平成12年度調査区と隣接している。

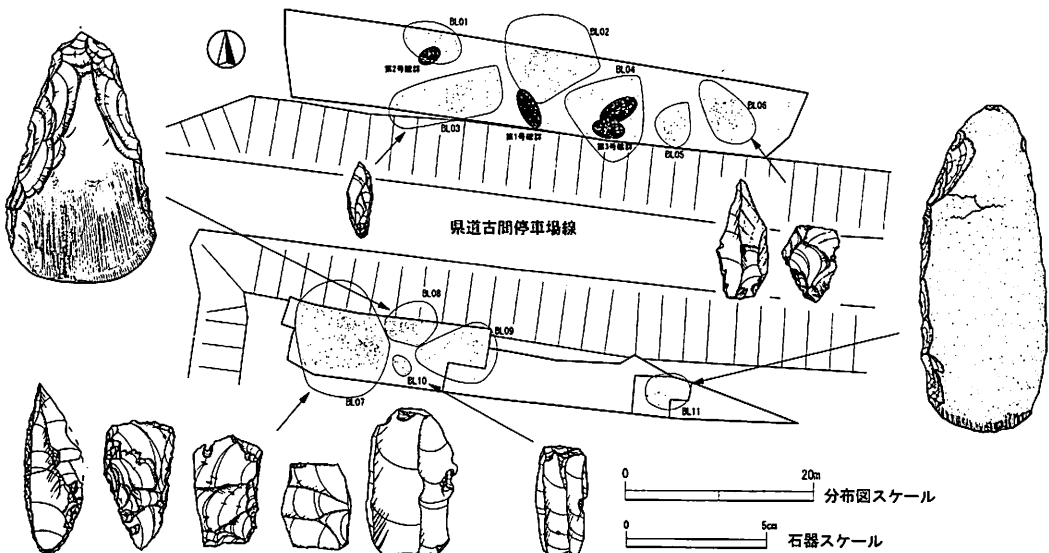


第10図 吹野原 A 遺跡位置図  
(1 : 100,000)

旧石器時代は2時期確認された。11ブロックの内7～9ブロックが始良丹沢火山灰降灰（以下AT）以前と思われる。黒曜石を主要石材とする石刃石器群には2側縁加工のナイフ形石器、斧形石器、台形石器が伴っている。石刃石核には打面調整、頭部調整、稜上調整が見られることから、日向林I石器文化より後に位置付けられる。この時期の斧形石器、台形石器の存在は不明瞭だったが、今回の成果によりその存在が立証できようか。

3基の礫群の時期はAT降灰以降である。それぞれ200～300の礫を有するが、焼け礫と、破損礫が少ない特徴を持つ。

5基の陥し穴は縄文時代と思われる。いずれも平面長方形、断面箱形を呈し、中央に1ヶ所の逆茂木痕を有する。縄文時代の遺物が皆無のため、詳細な時期は不明である。



第11図 吹野原 A 遺跡石器分布図



### 3 八幡遺跡群社宮司遺跡ほか（国道18号坂城更埴バイパス線関連）

調査担当者：町田勝則、上田典男、西 香子、寺内貴美子、谷 和隆、伊藤友久

所在地：更埴市八幡字社宮司3492番地の2ほか

調査期間：平成13年4月17日～12月20日まで

調査面積：本調査10,595㎡

（社宮司遺跡8,833㎡・大道遺跡300㎡・宮川遺跡1,462㎡）

試掘対象面積20,000㎡

（東條遺跡及びその周辺、東中曽根遺跡）

遺跡の立地：佐野川扇状地及び姨捨土石流台地

中心となる時代：平安時代

遺跡の特徴：社宮司遺跡は、更級郡衙推定地の近傍にあり、郡衙に関連する集落と考えられている。大道遺跡は古墳時代後期の集落遺跡であり、宮川遺跡は弥生後期の集落として知られている。

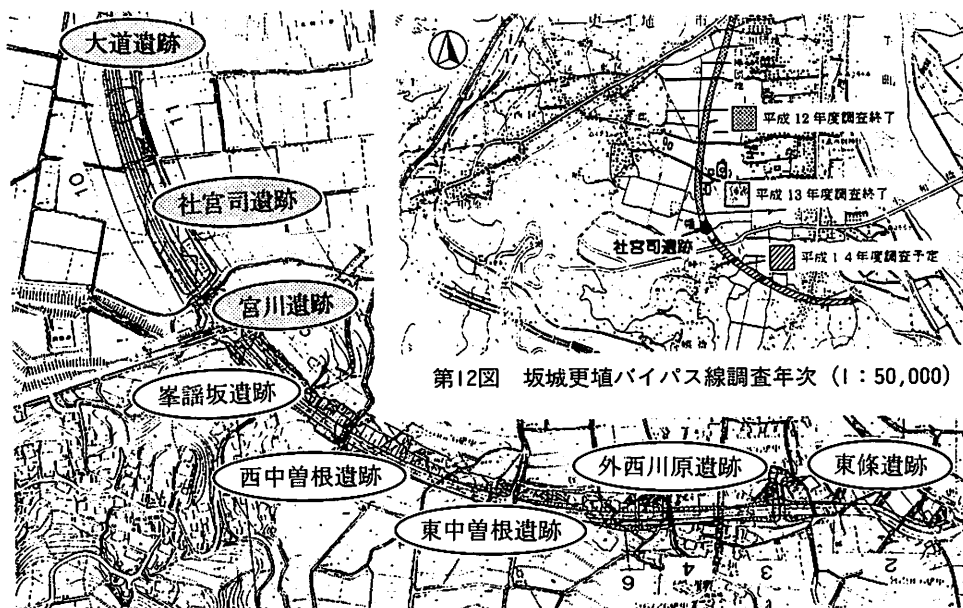
検出遺構：社宮司遺跡…竪穴式住居址17軒、掘立柱建物址32棟、溝址85本、土坑1,200基

大道遺跡…溝址2本、土坑3基

宮川遺跡…検出なし

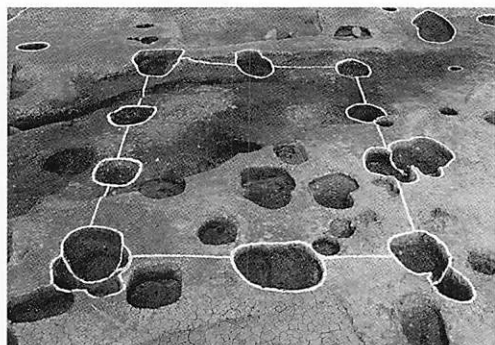
東條遺跡…埋没流路、周辺地より近世以降の水田址（試掘のみ）

東中曽根遺跡…遺物包含層（試掘のみ）



第12図 坂城更埴バイパス線調査年次（1：50,000）

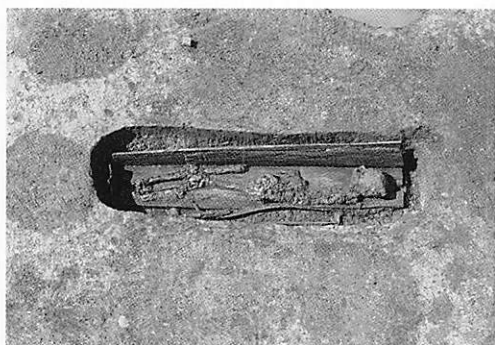
第13図 社宮司遺跡ほかの位置図



第14図 13号掘立柱建物址（2間×3間）



第15図 1号溝（東西に走る区画溝）



第16図 740号土坑（木棺墓）

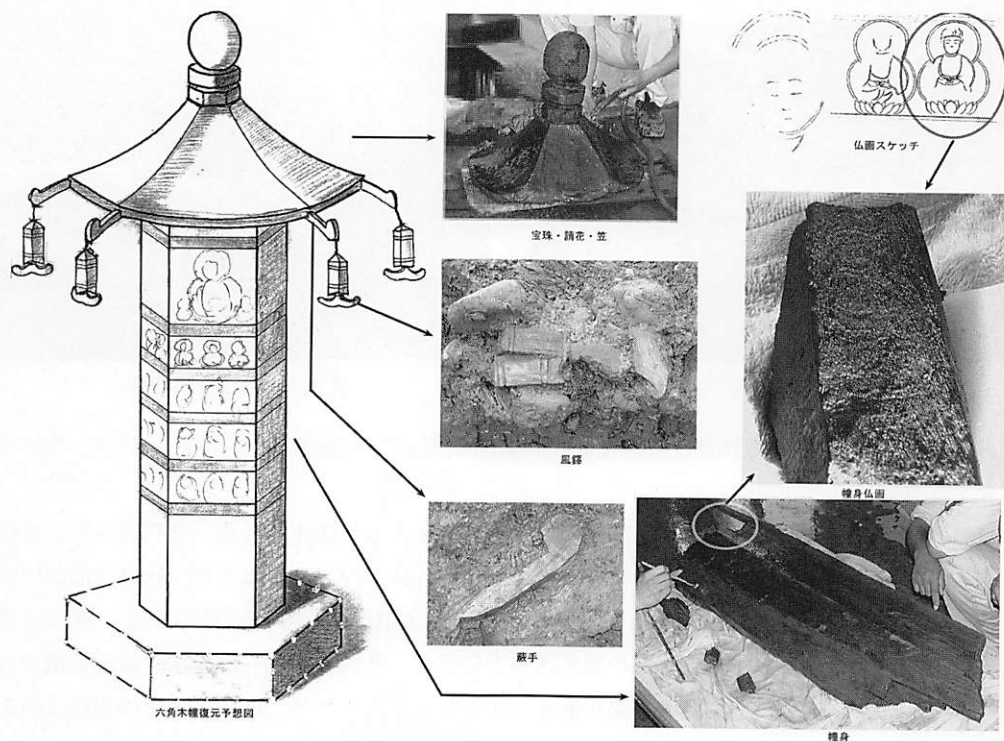


第17図 500号土坑（緑釉手付瓶ほか）

主な出土遺物：社宮司遺跡…緑釉陶器・二彩陶器・灰釉陶器・墨書土器、帯金具、礎板材  
・柱材、一木鋏・下駄・曲物・剝物、刀子柄、弓形木製品・  
刀形木製品、六角木幢・習書木筒

大道遺跡…土師器

調査の概要：社宮司遺跡（遺跡番号85-16）は、過去に一度、1975年西部沖ほ場整備事業に際し、更埴市教育委員会により発掘調査されている。出土遺物に奈良三彩陶器、墨書土器などがあり、住居址を伴わず、掘立柱建物址のみで構成されている点から、特殊な遺跡であり、近傍に『郡』と呼ばれる地籍名が存在する点を考慮して、更級郡衙関連施設として評価された。今回は2度目の発掘調査となったわけであるが、出土遺物に奈良二彩陶器の小壺、緑釉陶器の段皿、手付き瓶、横瓶などの焼き物、多量の墨書土器、習書木筒、銅製鍔帯などの特殊遺物が出土した。遺跡は、東西方向に走る2本の大溝によって区画された、2間×3間の掘立柱建物を中心とする集落であり、掘立柱建物址32棟とともに、前回の調査時に確認のなかった竪穴式住居址が17軒発見された。役人層の存在は濃厚と思われるが、掘立柱建物が中小規模であり、整然とした建物配置をとっていないなどの点から、更級郡衙を構成する直接的な中心施設としては不十分な結果となった。遺跡の存続期は、出土土器から判



第18図 六角木幢復元図スケッチ

断すると8世紀後半から10世紀前半を中心とし、時間幅が百年ほどある。今後、遺構・遺物の整理によって、集落像を明確化していく必要がある。また、今回の調査では、平安時代末から鎌倉時代初期に位置付けられる仏塔が、東西の大溝上層から単独で一括出土した。木製の笠塔婆で、型式は六角木幢（ろっかくもくどう）と呼ばれる。これまでに現存例がなく、餓鬼草紙（河本家本）や中尊寺金光明最勝王経金字宝塔曼荼羅図などの絵画から間接的に、その存在を知り得るもので、国内では初の出土となった。関連する遺構・遺物がなく、遺跡での位置付けは定かではないが、唯一発見された木製棺墓との関連、供養塔としての存在を検討してみる必要がある。墓は長軸170cm程度の素掘りの穴に、組合わせ式の棺を埋置したもので、棺内には1体の人骨が埋葬され、木製の形代（刀が二振り、弓が1本）が副葬されていた。土器の共伴はないが、棺材の炭素年代測定を現在進めており、木幢の炭素年代値と合わせ、関連を追究していこうと考えている。

大道遺跡は、2000年度の調査で発見された遺跡で、古墳時代後期に属する竪穴式住居址と掘立柱建物址を中心とした集落遺跡である。本年度の調査地は昨年の調査区に隣接した、現況の道路部分にあたり、掘削による攪乱激しく、2本の溝址と土坑3基のみ検出し、調査を終了した。



第19図 東篠遺跡周辺蛭坪地籍



第20図 東中曽根遺跡

宮川遺跡（104）の調査区は、1988年更埴市教育委員会の調査地点から離れており、今回の調査では遺物の包含、遺構の存在がないことを確認した。

宮川以南の遺跡地は、平成14年度以降の調査を見据えた試掘調査である。買取済みで、重機の搬入可能な地籍のみを実施した。東中曽根遺跡（89）は、厚さ30cmほどの遺物包含層が明瞭に存在する所で、弥生時代後期から古墳時代前期の集落遺跡の存在が示唆された。東篠遺跡（118）では、遺物を包含する黒色土の落ち込みを確認し、その規模から埋没流路状の遺構の存在が示唆された。ともに本調査の必要がある。また東篠遺跡周辺地、蛭坪・北田の地籍は試掘の結果、地表下50cmほどで、一過性の洪水砂に覆われた近世水田址を確認した。近世水田であること、調査には矢板土留め、排水等の設備が必要であり、労働安全対策も懸念されることから、本調査の必要はないと判断し、現況復帰した。

文献 1985年、更埴市教育委員会・遺跡調査会『長野県更埴市社宮司遺跡』  
 1976年、角川書店『新修 日本絵巻物全集第7巻』  
 1971年、河出書房新社『中尊寺』

#### 4 カ石条里遺構群（県道長野上田線カ石バイパス関連）

所在地：更級郡上山田町大字上山田97ほか

調査担当者：上田典男・西 香子

調査期間：平成13年12月5日～17日

調査面積：260㎡

遺跡の立地：千曲川左岸の沖積地

検出遺構：土坑、水田址(畦畔・溝状遺構)

出土遺物：縄文時代後期の土器、弥生時代の土器、中・近世の陶磁器、石器

調査の概要： 調査は、事業予定地内に試掘坑8ヵ所を設定して実施した。その結果それぞれの地点で2～4枚の、当時地表面を形成していたと思われる土壌化した層を確認し、縄文時代後期～近世の遺物を採集した。



第21図 カ石条里遺構群位置図（1：50,000）

## 5 上五明条里水田址（県道整備事業関連）

所在地：埴科郡坂城町大字上五明字久保田617

調査担当者：桜井秀雄・百瀬長秀

調査期間：平成14年1月24日

調査面積：15m<sup>2</sup>（確認調査）

遺跡の立地：千曲川左岸の沖積地

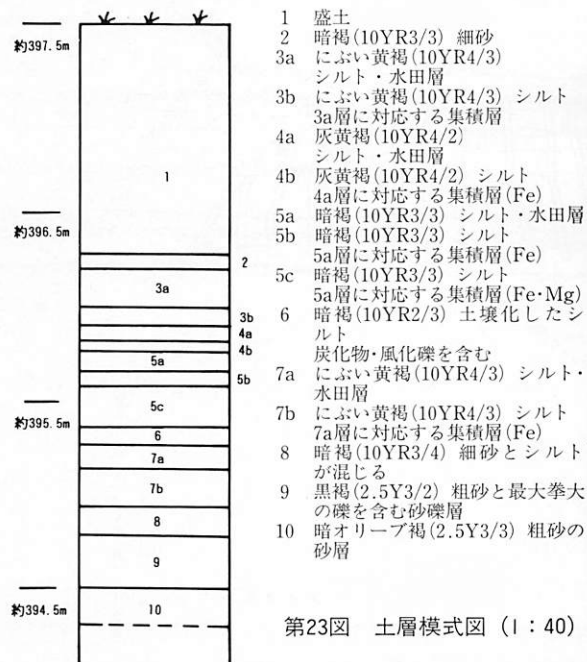
遺跡の特徴：水田跡

調査の概要：更埴建設事務所による緊急地方道路整備A（一）上室賀坂城（停）線に伴う発掘調査は平成

8・9・12年度の3ヶ年にわたって実施され、その調査報告書は今年度に刊行されている。今回の調査対象地は同事業地内で計画が未確定であった部分が確定し、用地が買収となったため調査の必要が生じてきた地点であるが、狭小であるため、重機によりテストピットを設け、土層断面観察を主体とする確認調査で対応することとした。位置的には平成9年度に調査された上五明条里水田址III-3区の西側近接地にあたる。テストピットは地表下3m強まで掘り下げた。地表下約1.2mまでは攪乱を受け盛土が覆っている。そのためか上五明条里水田址III及びIVで確認された出浦川と福沢川から押し出されたと考えられる砂礫層の堆積は認められなかった。水田層としては3a層・4a層・5a層・7a層の4面が確認できる。これらに対応する集積層としては3b層・4b層・5b層・5c層・7b層が該当しよう。また6層にも水田層の可能性はある。若干の差異はあるものの、近接する上五明条里水田址III-3区とおおむね対比できうる土層堆積である。遺物は全く認められなかった。



第22図 上五明条里水田址位置図(1:100,000)



第23図 土層模式図(1:40)



第24図 調査風景



## 6 鎌田原遺跡（中部横断自動車道関連）

所在地：小諸市御影新田214・215

調査担当者：川崎 保、白田広之

調査期間：平成13年12月3日～21日

調査面積：4,000㎡

遺跡の立地：浅間山西南麓湧玉川左岸の台地

検出遺構：竪穴住居跡10軒、土坑20基

出土遺物：古墳時代前期の土師器、磨石

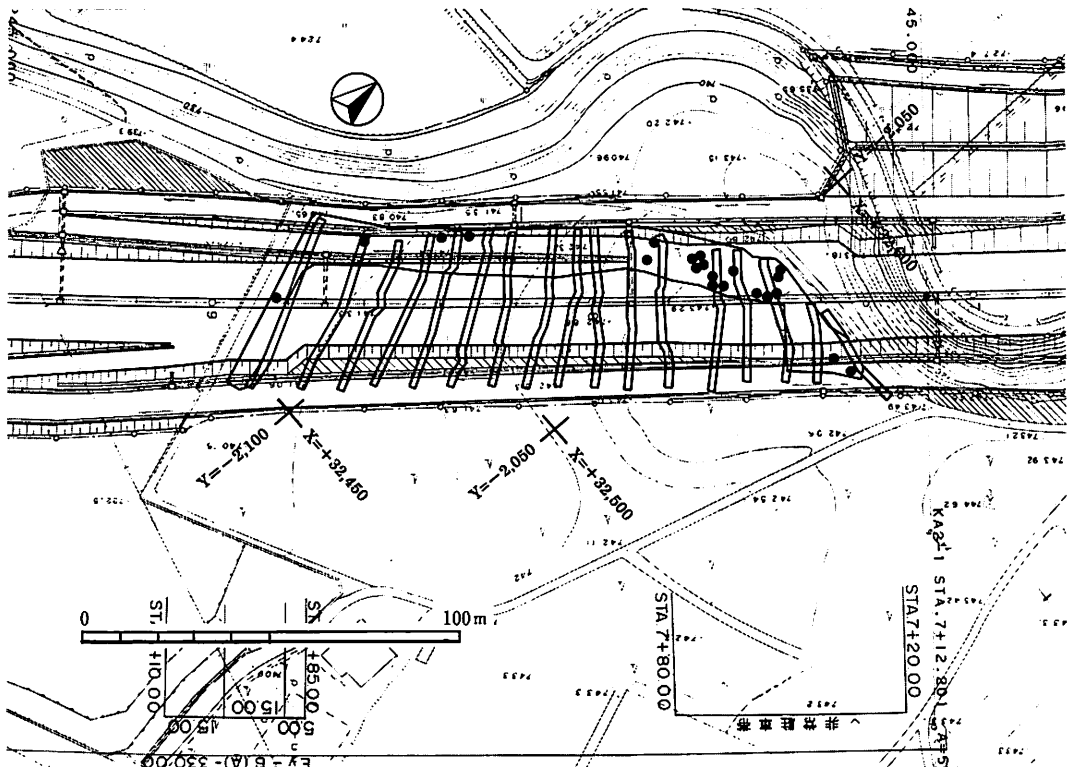
調査概要：鎌田原遺跡はいわゆる田切地形の台地上にあり、東西に細長い形が遺跡の範囲とされる。昭和63年に国道141号線バイパスの建設に伴い小諸市教育委員会が今回の調査範囲の西側を発掘調査している。試掘調査が行なえていなかったため、まず調査対象範囲全体に17本トレンチを設定した。トレンチ調査の結果、調査範囲の南東側に竪穴住居跡が集中していることが判明したため、本年度の調査が厳冬期に開始されたことを鑑み、遺構密度の低いと考えられる北西側（崖側）を中心に面的調査を行なった。

面的調査を行なった北西側は、土器片や磨石などの散布も認められ、20基の土坑が検出された。本年度はこの部分の地形測量を行なって調査を終了した。

面的調査を行なった北西側は、土器片や磨石などの散布も認められ、20基の土坑が検出された。本年度はこの部分の地形測量を行なって調査を終了した。



第25図 鎌田原遺跡位置 (1 : 100,000)



第26図 鎌田原遺跡調査範囲及び土坑配置図 (1 : 2,000)

## 7 矢出川遺跡群（畑地帯総合整備事業関連）

所在地：南佐久郡南牧村大字野辺山字二ツ山306-33ほか

調査担当者：川崎 保

工事立会：百瀬長秀、川崎 保

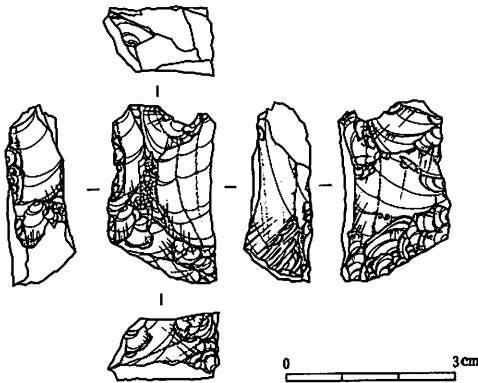
調査期間：平成13年10月29日～11月20日  
10月16日、22日（工事立会）

調査面積：1,900㎡

遺跡の立地：八ヶ岳山麓野辺山高原の東南端

検出遺構：土坑12基 出土遺物：黒曜石剥片  
調査概要：耕作土中から二次加工のある剥片が1点出土した。現耕作土および旧耕作土（前年耕作土）が合わせて深さ60cm以上あり、毎年天地返しを行なっているので、プライマリーな位置を保っていたものではないだろう。地山の礫混じりローム層の上面で土坑が12基検出された。マルチを含んでいないことや旧道路建設時の重機掘り込み土がこれらの土坑の上位にあるので、畑地帯造成以前のものと考えられる。

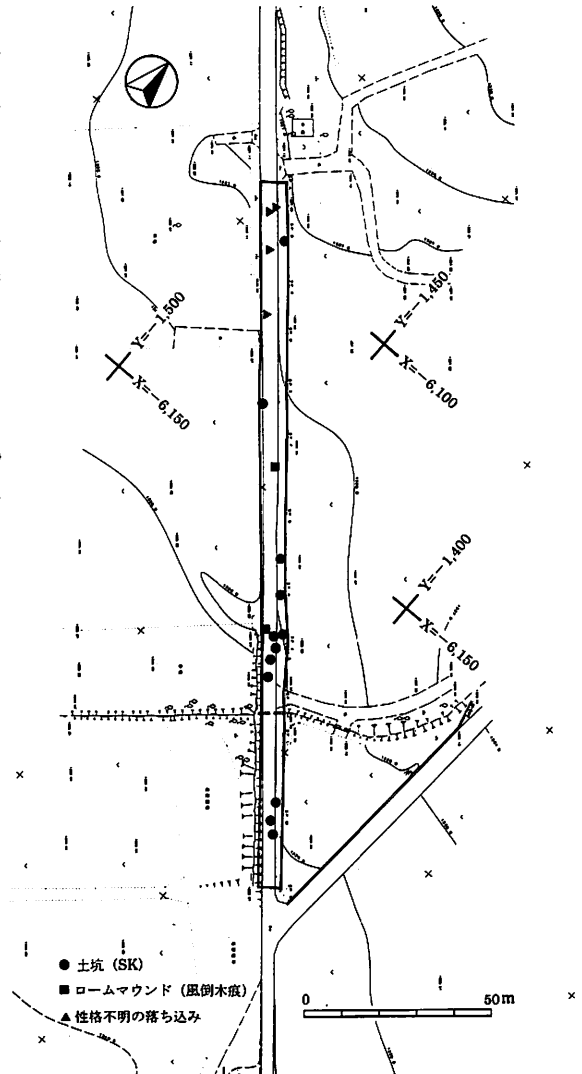
以前の試掘調査で検出されたローム層からの石器の出土は見られなかった。工事立会い部分に関してとくに人為的な痕跡や遺物は認められなかった。



第28図 二次加工のある剥片（1：2）



第27図 矢出川遺跡群 位置図（1：100,000）



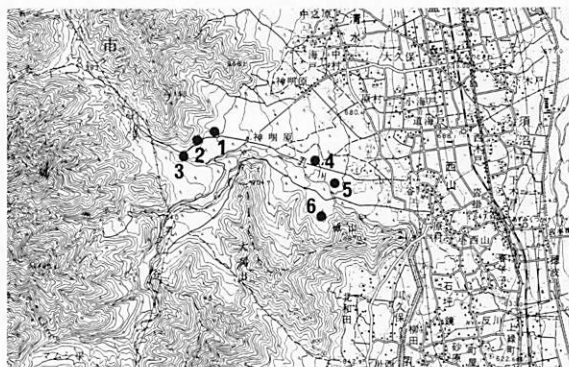
第29図 調査範囲及び遺構配置（1：2,000）

## 8 山の神遺跡ほか（アルプスあづみの公園関連）

担当者：川崎 保

試掘調査（肩平遺跡・まねき遺跡）

内容 肩平遺跡およびまねき遺跡（神明原開田線地点）で、土坑やピットが検出された。面的な調査が必要である。まねき遺跡（常盤林道地点）では遺構・遺物ともに検出されなかった。



第30図 公園関連遺跡位置（1：100,000）

	遺跡名	所在地	調査期間	調査原因	対象面積	調査面積
1	肩平	大町市常盤7836-5ほか	10月10日～	神明原開田線	10,000m <sup>2</sup>	640m <sup>2</sup>
2	まねき	大町市常盤7923-3ほか	～10月23日		3,200m <sup>2</sup>	1,280m <sup>2</sup>
3	まねき	大町市常盤7840-6ほか	11月27日～28日	常盤林道	1,200m <sup>2</sup>	75m <sup>2</sup>

第1表 試掘遺跡一覧

整理作業（山の神遺跡・乳川石堤・菅の沢遺跡）

	遺跡名	所在地	調査年度	遺跡の内容
4	山の神	大町市常盤7992ほか	平成9～12年度	縄文時代早期の集落遺跡
5	乳川石堤	大町市常盤8045-1ほか	平成11年度	近世の乳川の氾濫に備えた石堤
6	菅の沢	大町市常盤8018-2ほか	平成12年度	弥生から古墳時代の土坑、柱穴

第2表 整理遺跡一覧

本年度は報告書刊行に向けた整理作業が行なわれ、来年度報告書刊行の予定である。

内容 遺物は一部追加して注記した。遺物台帳を作成し、法量計測、石材鑑定、分類・整理を行なった。土器は接合作業をすすめた。山の神遺跡出土の土器の実測はほぼ終了した。また炭化物を年代測定、樹種の同定に、人類学的所見の鑑定に委託・依頼した。

成果 山の神遺跡では、押型文土器が量的に最も多く、次いで縄文・撚糸文施文土器、沈線文土器の順になる。ここでは押型文原体について分かった知見を紹介したい。

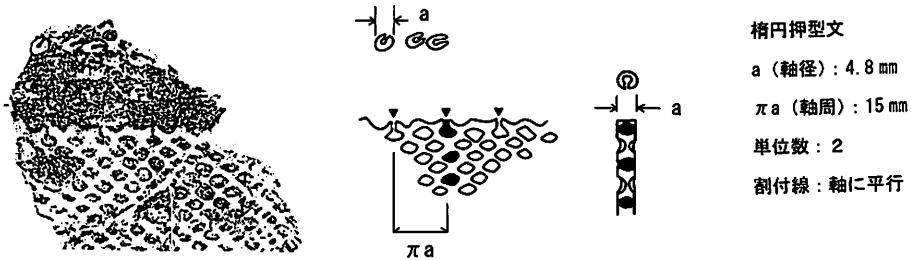
原体の端部 頸部（押型文が施文されない部分）に施される刺突に押型文の原体が用いられているのではという指摘があったが、第31図イの例はそれを示す好例と思われる。この押型文原体の端部は中が空洞で、たまたま一部が欠けたため、刺突文はC字形になりこれを軸として回転した場合楕円押型文の上部にこの欠けた部分が繰り返す様子がわかる。この他山形押型文でもその原体端部を刺突したと思われる例が見られ、中心が空洞になっていることが窺える資料がある。押型文原体を何から作ったかを知る手がかりになろう。

単位 文様のくりかえしから単位を割り出す。2単位が多いが1や3単位もある。

文様の割付方法 原体の軸と割付線の間隔を考えたとき、軸と割付線が平行である場合（イ）

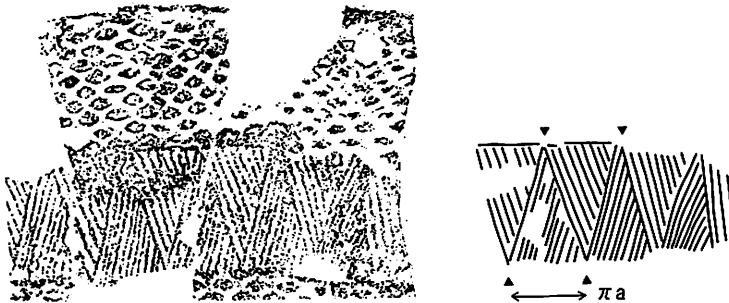


と軸と割付線が斜交している場合(二)が考えられる(斜交している場合、割付線が軸に対して右巻・左巻の2つのケースが考えられる)。今後良好な資料からこうした属性(軸周、軸径、軸長、単位数、段数、割付線の方向など)を分析し、地域色や時間差の基準として活かさないか検討を進めていきたい。



イ 押型文原体端部が刺突された例(楕円押型文)

楕円押型文  
 $a$  (軸径): 4.8 mm  
 $\pi a$  (軸周): 15 mm  
 単位数: 2  
 割付線: 軸に平行



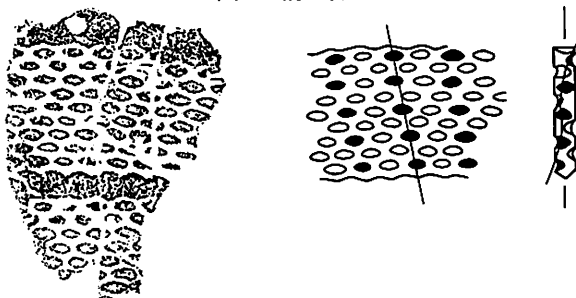
ク 楕円押型文・複合鋸歯押型文

複合鋸歯押型文  
 $a$  (軸径): 6.4 mm  
 $\pi a$  (軸周): 20 mm  
 $b$  (軸長): 32 mm  
 単位数: 1



ハ 3単位の楕円押型文

楕円押型文  
 $a$  (軸径): 5.1 mm  
 $\pi a$  (軸周): 16 mm  
 単位数: 3



ニ 割付線右巻の楕円押型文

楕円押型文  
 $b$  (軸長): 36 mm  
 段数: 9  
 割付線: 軸に対して右巻き



第31図 押型文原体の端部・単位・割付方法の推定(1:2)

9 聖石遺跡・長峯遺跡（県営圃場整備事業関連発掘調査報告書・整理作業）

担当者：柳澤亮・寺内隆夫

経過 両遺跡は茅野市北山に所在する縄文時代中期～後期の集落遺跡である。八ヶ岳北西麓の東西にのびる同じ浸蝕段丘上の、東上流部に長峯遺跡（標高1,054～1,073m）、西下流部に聖石遺跡（1,038～1,048m）が隣接して立地する。平成10年度に聖石遺跡（調査面積15,600㎡）、11・12年度に長峯遺跡（同36,750㎡）の調査を実施した。また聖石遺跡の一部では、9～11年度に茅野市の調査が行なわれている。調査の結果、どちらも当該期の八ヶ岳北西麓を代表する大規模な集落遺跡であることが明らかになった。なお遺跡範囲の大半が調査対象となり、盛土保存された未調査分（段丘下位の遺物分布範囲）以外はすでに消滅している。

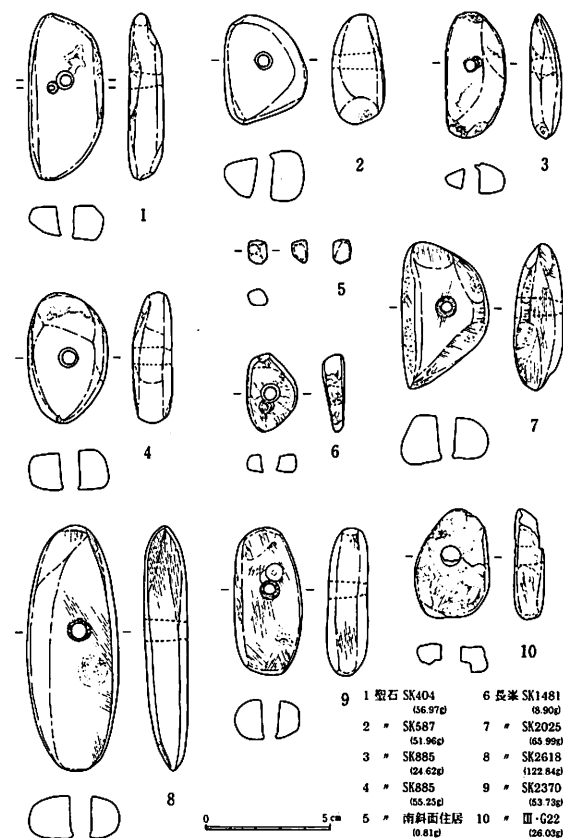
本年度は報告書刊行に向けた整理作業を行なった。刊行は平成14年度に予定されている。

整理作業 年度当初から遺物・図面・写真といった膨大な調査資料の基礎整理に多くの時間を割きつつ、土器の接合・復元、石器の種別・分析、遺構図の検討、全体図の作成といった報告書に関わる作業を実施した。また下半期には土器や石製品の実測図作成にも着手した。

成果 現段階での整理報告をする。遺跡の時期は、聖石遺跡が中期後葉（曾利Ⅰ式）～後期前葉（堀之内Ⅱ式）、長峯遺跡が中期前葉（五領ヶ台Ⅱ式併行）～後期前葉（堀之内Ⅱ式）へと継続している。

聖石遺跡は石器や原石・剥片等の分類と計測が終了し、その総数は13,212点にのぼる。組成の特徴として石器3,166点のうち、磨製石斧（54点）や打製石斧（144点）が比較的少数に止まる一方、黒曜石の小形不定形石器が圧倒的に多く1,500点を越えている。また黒曜石の原石・石核、両極剥離面を有する石器、剥片・碎片、そして安山岩製の台石や凹石が多く存在している。このことは、原産地に近い当遺跡で、黒曜石製石器の加工が盛んに行われたことを裏付けている。

また長峯遺跡の中期中葉の竪穴住居跡からは、赤彩や漆塗りの施された有孔罎付土器や漆容器（土器）、赤色顔料（礫や粒状のもの）、顔料を粉碎したと見られる敲石や台石が確認されており、一連の工程を復元できる可能性がある。



第32図 聖石遺跡・長峯遺跡出土のヒスイ製品（1：3）

## 10 馬捨場遺跡（広域営農団地農道整備事業八ヶ岳地区関連）

所在地：茅野市泉野5729番地他

調査担当者：河西克造、桜井秀雄

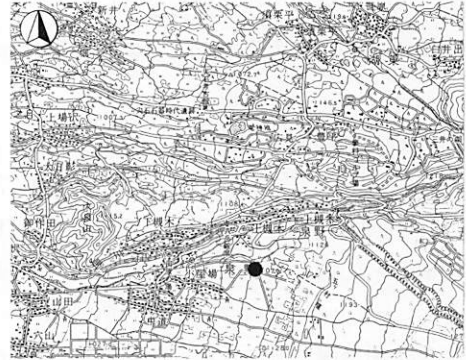
調査期間：平成13年4月16日～5月22日

調査表面積：1,000m<sup>2</sup>（総計11,500m<sup>2</sup>）

遺跡の立地：柳川以南の段丘上～段丘端部

遺跡の特徴：石器集中地点（ブロック）、縄文早期、  
後期の土坑群、縄文中期の集落、  
縄文早期～中期、中世の狩猟場

検出遺構：石器集中地点（ブロック）5、土坑10、  
陥し穴5



第33図 馬捨場遺跡 位置図（1：100,000）

出土遺物：縄文時代早期土器、槍先形尖頭器、石鏃、削器、凹石、磨石など

**調査の概要：**馬捨場遺跡は、茅野市南部を流れる柳川以南の段丘上～段丘端部に立地する。段丘上については昨年度当センターが発掘調査を実施し、旧石器時代の石器集中や縄文中期初頭の集落などが検出された。今回は段丘端部～斜面を対象とし、年度当初に発掘調査を実施した。その結果、段丘端部と斜面で旧石器時代の石器集中、押型文（山形文）が底部付近から出土した縄文早期中葉の土坑や段丘の縁に沿って配列する早期後半の陥し穴、後期の土坑などが検出された。昨年度調査成果との照合で、①旧石器時代の石器が段丘端部まで広がること、②段丘端部での縄文早期の土坑群と陥し穴、縄文後期の土坑群の存在、③中期初頭の集落が段丘端部まで広がらないことなどが判明し、遺跡の実態がより明確にできた。

**整理作業：**発掘調査終了後に報告書刊行に向けた整理作業を行い、年度内に報告書を刊行した。整理作業は土器接合・復元、遺物実測、遺構図作成、トレース、遺物写真撮影、図版組み、原稿執筆などを行った。旧石器時代では各ブロックの石器組成や石材組成、黒曜石の産地、縄文時代では中期初頭（五領ヶ台Ⅱ式）の集落構成などが明らかにされた。詳細は本報告書を参照されたい。



第34図 調査風景



第35図 第17、18号ブロック調査風景

## 11 箕輪遺跡（国道153号伊那市～箕輪町・伊那バイパス関連）

所在地：上伊那郡箕輪町三日町

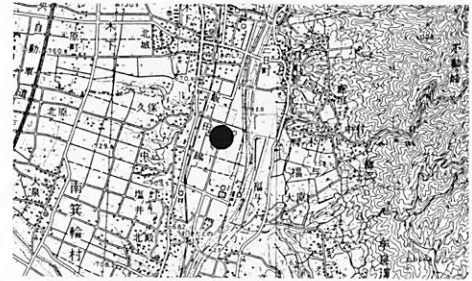
調査担当者：市川隆之・白居直之・桜井秀雄・  
藤原直人

調査面積：11,250㎡ 延べ面積 13,000㎡

調査期間：平成13年4月5日～4月27日・

9月17日～平成14年1月11日

遺跡の立地：天竜川と西山山麓からの河川により  
形成された複合扇状地。



第36図 箕輪遺跡の位置（1：100,000）

主要検出遺構：（ ）内は昨年度との合計

- ・ 竪穴住居跡 10(39)軒・掘立柱建物跡 2 (9)棟
- ・ 平地式住居跡 2 (4)棟
- ・ 土坑57(77)基
- ・ 溝跡26(60)条
- ・ 遺物集中5地点
- ・ 水田跡〔中・近世7(16)地点、古代1(3)地点、古墳3(9)地点〕
- ・ 杭列畦畔15(24)条

主要出土遺物

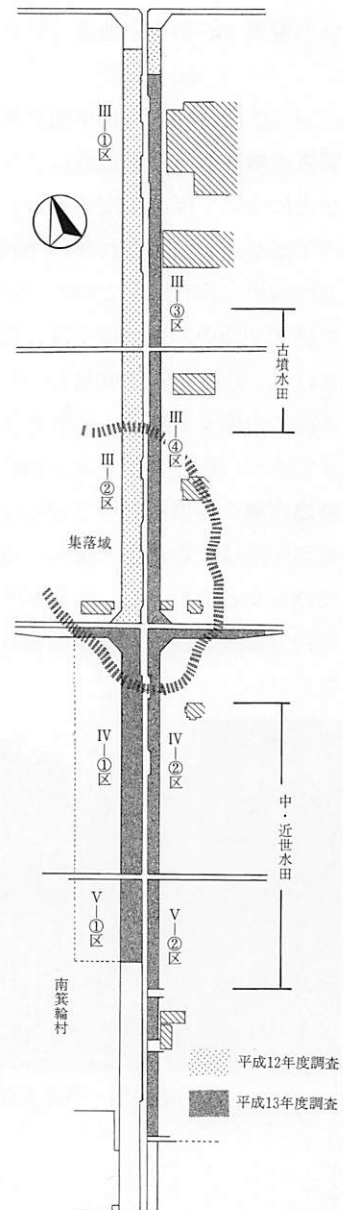
土器：縄文時代後・晩期、弥生時代中期～後期、古墳時代前期、古墳時代後期～平安時代前半の土師器・須恵器、中近世陶磁器 石器：太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、打製・磨製石鏃、砥石、石庖丁、磨り石、ほか各種未製品 石製品：垂飾、紡錘車  
土製品：ミニチュア容器 木製品：建築部材、杭  
金属製品：ヤリガンナ、銭

調査の概要：本遺跡は箕輪町から南箕輪村にまたがる天竜川右岸の沖積地約100haが範囲として据えられている。本年度は、道路及び用水路建設予定地である箕輪町三日町地籍内を対象として行われた2カ年目の調査である。発掘地点は路線南側を中心とし、集落跡南西域と水田跡が検出された。

昨年度調査によって調査区中央部（Ⅲ区南・Ⅳ区北）が微高地、微高地の南北両側が低地となることが確認され、本年度は集落域の範囲と南側に広がる低地水田の起源がどこまで遡るかを課題として調査を行った。

### (1) 集落域〔Ⅲ-④・Ⅳ-①・②区〕

集落域Ⅲ-④区は昭和20年代の整地による破壊が著しく、遺構の遺存状況が悪かったため北域の状況が不明瞭であった

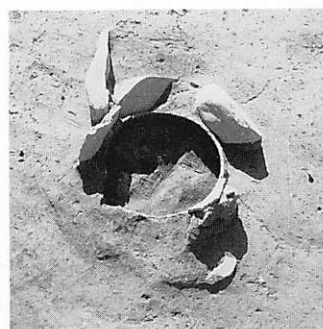


第37図 調査区全体図（1：3,500）

が、ほぼ南北・東限の広がりを捉えることができた。遺構は、弥生中期後半・後期中葉、古墳後期前半の竪穴住居跡や掘立柱建物跡・土坑、縄文晩期の遺物集中などが検出され、昨年度同様に弥生中期から古墳後期まで断続的に集落が存在する状況が確認された。弥生中期の竪穴住居跡は2軒検出され、扁平片刃石斧・有孔磨製石鏃・打製石鏃の製作工程を窺い知る資料が栗林式土器とともに出土した。弥生後期は竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡、土坑のほか、幅約20cm、深さ15cmの細長い溝で四方を囲った囲溝址が4基検出された(第39図)。竪穴住居の中には長軸8mを超え、複式炉となる大型住居があり、大型の囲溝址も集中することから、昨年度の遺構と合わせて集落構造及び囲溝址の性格を解明する上で注目すべき資料が得られた。古墳後期は、竪穴住居跡2軒と掘立柱建物跡などが確認され、柱穴からは土器・紡錘車などが出土した。

### (2) 北側低地域(Ⅲ-③・④区)

昨年度の調査で河道状低地が7地点で検出され、現行道路4mを隔てた東側の調査区であったが、近世の流路・杭列、古墳時代後期前半の溝と建築部材を芯材とした畦畔・水田跡が大規模に検出された。古墳水田の畦畔・溝址の土手は、杭材・大型建築部材を芯材として大型礫を用いて更に補強する構造であり、低湿地特有の構築がなされていた。溝址の出土遺物には古墳前期に遡る土器があり、水路としての開発時期がほぼ該期に当たると考えられる。また古代の水田跡として擬似畦畔が数条検出された。



第38図 弥生後期竪穴住居(SB35) 石囲埋葬炉

### (3) 南側低地域(Ⅳ-①・② V-①・②区)

本調査区は微高地から緩やかに傾斜し、砂礫層の微妙な起伏による河道状低地が複雑に形成されていた。砂礫層の微妙な高まりからは縄文後・晩期に遡る土器集中があり、微高地寄りには弥生中期から近世にかけての遺物が散在して出土した。Ⅳ区では現耕作土直下の黒褐色粘土及びシルト質粘土に水田2面を確認したが、削平により整然とした区画を検出することができなかった。断片的に確認した2面の水田区画は堆積層・区画方向・出土遺物などから平安時代以降の時期が該当すると判断された。Ⅴ区では水田面と溝址を6条検出し、比較的深い低地部からは古墳後期に遡る水田区画が部分的に検出された。しかし幅3m長さ40mの護岸を造成した溝址や面的に検出された水田は中・近世と考えられる。



第39図 弥生後期囲溝址、ピット群

本年度の調査では集落域の広がりは確認できたものの、弥生時代に遡る水田址は、明確に検出されなかった。大規模な弥生中・後期の集落隣接低地に生産域が存在したか否かは今後の課題としたい。

## 12 丸山遺跡（県単農免農道整備事業）

所在地：上伊那郡飯島町本郷

調査担当者：藤原直人、白居直之、市川隆之、  
桜井秀雄

調査期間：平成13年5月9日～9月27日、  
10月9日

調査面積：約4,100㎡

遺跡の立地：天竜川左岸の河岸段丘

検出遺構：縄文時代竪穴住居跡8軒、土  
坑6基

出土遺物：縄文土器・土偶・打製石斧・

磨製石斧・石鏃・石錘・磨石・敲石・石皿・石棒

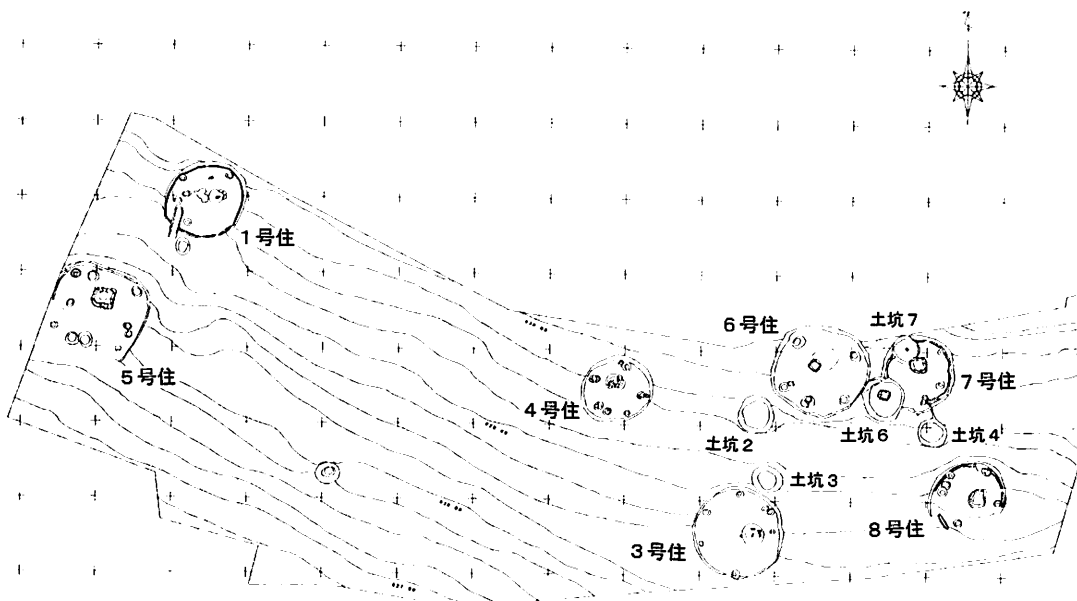


第40図 丸山遺跡 位置図 (1:100,000)

調査の概要：

中央アルプスから流れ出る与田切川によって造られる扇状地端部の舌状台地に位置し、遺跡の東側には天竜川が太平洋に向かって南流している。

丸山遺跡のある本郷地区の台地上には縄文時代の遺跡が数多く存在している。特に丸山遺跡の南を流れる十王堂沢川の両岸には縄文時代中期を中心にして草創期～晩期の土器・石器などが出土している。丸山遺跡の西（JR飯田線をはさんだ対岸）には本郷原林遺跡・堤の窪遺跡が、東方向には十王堂坂の上遺跡が知られているところである。また、南の西岸寺付近には飯



第41図 丸山遺跡 遺構配置図 (1/400)



島城遺跡などの中世遺跡が存在する。本郷原林遺跡は、昭和56年、飯島町教育委員会によって調査の報告がされており、縄文時代中期後葉の住居跡が5軒確認され、多数の土器・石器が出土している。十王堂坂の上遺跡は、昭和57年の飯島町教育委員会の報告で、縄文時代中期中葉の住居跡13軒・土坑（貯蔵などの目的の穴）106基などが明らかにされている。

本遺跡の検出遺構は竪穴住居跡・土坑で、縄文時代中期の所産と考えられる。



第42図 石組みのある土坑（6号土坑）

竪穴住居跡は縄文時代中期中葉から後葉と考えられる。平面形は円形・楕円形・八角や六角の多角形などさまざまで、一定の規範は感じられない。中央には石囲い炉とその周辺には4～6基の柱穴が認められる。床面の状況は部分的に希薄な住居跡があるが、概ね良好である。7号住居跡では、覆土から多量の炭化物が検出されたことから焼失住居の可能性が考えられる。

土坑では2・3・4・6・7号の形状が類似している。平面形は円形で、直径は0.7～2.4m、深さ0.85～1.4m、断面の状況がほぼ矩形を呈している。土層の中位にやや硬化した面を持つものや、平石や円礫などを用いた石組みが認められる（2・4・6号土坑）ものなどがある。石組みは石囲い炉の形状に似ているが、焼土・被熱など炉として機能した痕跡は認められないことから祭りをを行った施設の可能性がある。土器の出土は僅かであるが、縄文時代中期中葉の後半の所産と考えられる。

丸山遺跡の全貌は今回の調査ではつかめなかったが、1号・5号住居跡が他の遺構群に対して西に離れていることや調査区の北側の丘陵上部の地形がやや平坦なことから、集落の広がり調査区北側やJR飯田線の西側に広がるものと思われる。

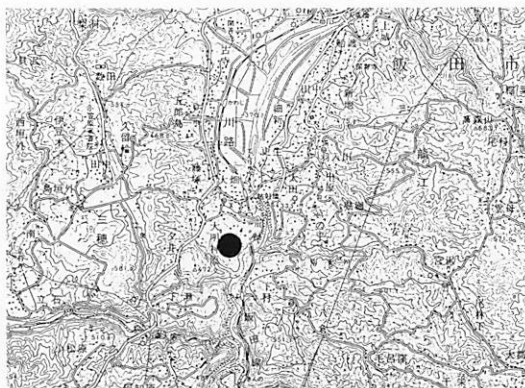


第43図 調査区全景

出土遺物では、1号住居跡から大木系と考えられる土器が、床面直上から半完形で出土している。従来、伊那谷では大木系の出土は極稀といわれ、上伊那でも南に位置する飯島町の遺跡で認められたのは興味深い事例である。石器では伊那谷特有の横刃型石器が多量に出土している。

### 13 川路大明神原遺跡（一般国道474号飯喬道路・三遠南信自動車道関連）

所在地：飯田市川路5435ほか  
調査担当者：若林卓 西嶋力 青木一男  
調査面積：14,110㎡  
調査期間：平成13年4月23日～12月21日  
遺跡の立地：天竜川西岸の河岸段丘  
遺跡の特徴：縄文時代中期の集落  
検出遺構：竪穴住居跡・竪穴遺構42(12)  
小ピットを含む土坑1110(630)  
溝(1) ( )内は本年度分



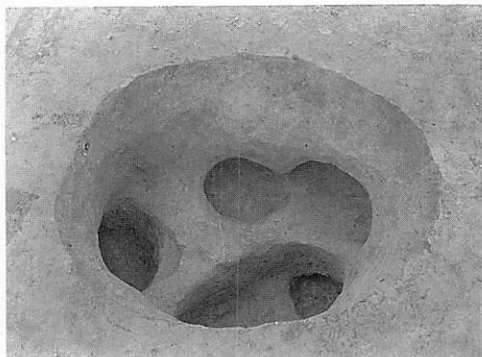
第44図 川路大明神原遺跡の位置 (1:100,000)

出土遺物：縄文土器・石器

調査の概要：遺跡内の地形は、中央の南北方

向の谷を挟んで、台地状の地形を成す東部と、川路丘陵山麓の扇状地にあたる緩傾斜地の西部に大きく分かれる。本年度は、東部台地の北部で面的調査を行い、また、西部扇状地南部の尾根状微高地において面的調査と確認調査を実施した。

東部台地では昨年度と同様に縄文時代の遺構群が検出された。西縁部の⑩区は、竪穴住居8軒、土坑約80基が密集しており、昨年度⑧区の縄文中期集落が北側に拡大する状況が据えられた。竪穴住居のうち2軒は一辺1.4m、深さ50～60cmの大形の石囲炉をもつ。台地中央部から東端部に位置する①・⑪～⑭区では、検出遺構の殆どが土坑で、住居跡は最頂部にあたる⑫区で1軒確認したにすぎない。⑫区は単純な円形土坑だけでなく、内部に付属坑をもつ形態のものが目立つ。こうした形態の土坑は少数ながら昨年度の調査区にも散在していたが、⑫区での分布は密集する複数基から成るまとまりが幾つか認められ、各々の土坑の規模も大きい。遺物を出土した例はない。付属坑は、土坑本体壁の下部を抉って円形ないし楕円形に掘り込み、深いものでは本体底から1.2mに達し、また、奥行きは最大1m掘り込む例がある。付属坑の構築数は1～4基で、内部にさらなる掘り込みを有する付属坑も認められる。



第45図 付属坑をもつ土坑

西部扇状地の末端寄りに位置する⑳区では、縄文時代の小形竪穴・円形土坑、陥し穴が検出され、東側台地と類似した様相を示している。一方、山寄りの㉑区は、2軒の方形竪穴と密集する約350基の小ピット群が特徴的である。他地区の縄文時代遺構群とは異質な内容といえるが、遺物の遺存状態が著しく不良で、帰属時期を特定し難い。ただし、ピットは近世以降に下るものをかなり含んでいると思われる。





第46図 調査範囲 (1 : 4,000)

遺跡にかかる三遠南  
 信道用地は西部扇状地  
 中央を貫く国道151号  
 線を越えてさらに西方  
 に延びているが、種々  
 の制約により、現時点  
 で調査可能な範囲は限  
 られている。本年度は  
 ⑳区から続く尾根状傾  
 斜地でトレンチ調査を  
 実施したが、現代溝と  
 重複して走る時期不明  
 の溝1本を検出したに  
 とどまった。この溝を  
 含め、遺物は出土して  
 いない。

三遠南信自動車道の  
 建設に伴う川路大明神  
 原遺跡の発掘調査は平  
 成11年に始まった。本  
 年度までの3年間で、  
 面的調査は50,000㎡を  
 超え、縄文中期の集落  
 跡をはじめ、円形土坑  
 群、陥し穴群など、大  
 明神原で営まれた様々  
 な活動の痕跡が明らか  
 になった。とは云え、  
 少なからぬ面積の未調  
 査地が残っており、次  
 年度以降、この部分の  
 発掘調査が可能となっ  
 て、遺跡内容をより詳  
 細に把握するための新  
 たな知見を加えること  
 が期待される。

## 14 竹佐中原遺跡および飯田市山本地区諸遺跡

(一般国道474号飯喬道路(三遠南信自動車道)建設事業関連)

### 1) 竹佐中原遺跡

遺跡所在地：飯田市竹佐180-1ほか

調査担当者：大竹憲昭・上田真・藤原直人

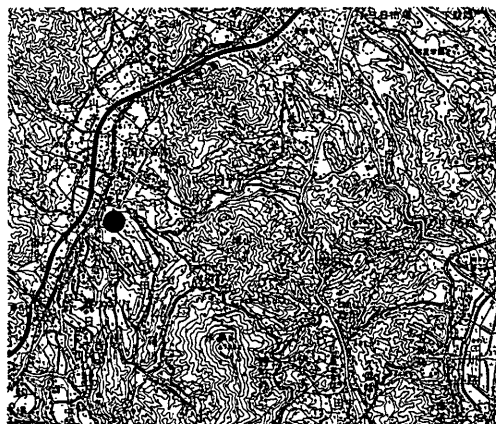
調査面積：6,500m<sup>2</sup>

調査期間：平成13年7月4日～同年12月21日

遺跡の立地：古扇状地が浸食される過程で残った丘陵上

遺跡の特徴：旧石器・平安時代の複合遺跡

主な検出遺構：ブロック2ヶ所(旧石器時代)、  
竪穴住居跡1軒(平安時代)



第47図 竹佐中原遺跡の位置(1:100,000)

主な出土遺物：微細剝離のある石器・剥片・石核(旧石器時代)、土師器・須恵器(平安時代)

#### 遺跡の位置と調査の経緯

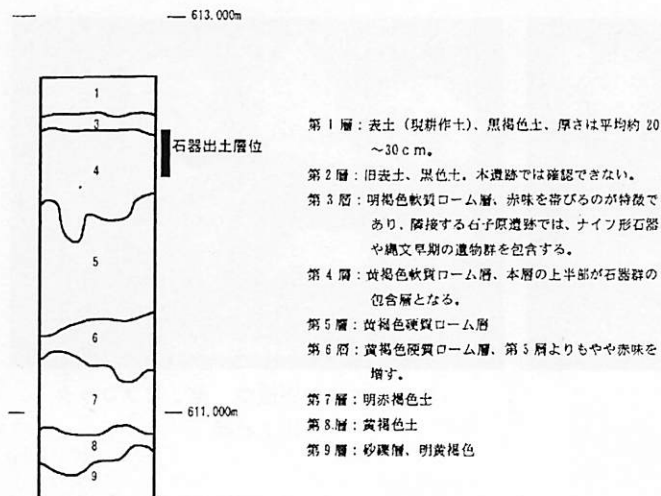
竹佐中原遺跡は、長野県南部の飯田市西南部山本地区に位置する(第47図)。西方には標高1,397mの高鳥屋山(たかとやさん)があり、遺跡はその山麓部に発達した扇状地にあたる。遺跡のある小丘陵は、この地域で一番古く形成された扇状地で、はじめは一続きの平坦な扇状地であったが、その後の浸食により、平坦であった扇状地は分断され、東西に長い丘陵が形成された。竹佐中原遺跡はその丘陵のひとつに立地する。標高は612mを測る。

竹佐中原遺跡はインターチェンジ予定地にあたり、昨年までに縄文時代以降の竪穴住居跡や土坑を確認していた。本年度は7月4日より試掘調査に入り、平安時代の竪穴住居跡1軒を確認していたが、7月27日にローム層上面より石器が出土した。その後半月のうちに20余点にまで増えた。この段階で、石器群の特徴が、いわゆる前・中期旧石器に関連しそうであるという所見から、遺跡の早期公開、調査指導委員会の設置を検討し、8月26日に遺跡の公開、9月7日ほか計4回の遺跡調査指導委員会などを行ってきた。

旧石器出土地点の調査は、当初確認された地点およびその周辺部を集中的に行い、点数は増加したが、新しい分布域の確認はできなかった。また、本遺跡は旧石器ねつ造問題が社会的にも大きな話題となっている中での調査であったため、マスコミその他各方面からの注目も高かった。

#### 遺跡の層序

遺跡の基本土層は第48図に示した。石器の出土層準は、第4層の黄褐色ローム層中である。ここで言うローム層は、細礫・砂・粘土・火山灰などが混じった地層である。この地層は再堆積と考えられているが、後述するように石器群はブロックで確認されることから、大規模な再堆積とは考えられない。第1層から第4層までは、ごく少量ながら、AT火山ガラスが含まれ



第48図 竹佐中原遺跡基本土層

8×8mの範囲内に収束し、2ヶ所の遺物集中が確認されている。ただこの他、数点はこの範囲外から単発的に発見された。

調査終了後、間もないので石器の出土点数等、暫定的ではあるが、目安として以下に、ブロックごとの組成を示す。

第1号ブロックの点数は22点、その内訳は、微細な剥離痕等が見られ、いわゆる石器と考えられるものが5点、石核1点、台石？1点、その他が剥片・碎片である。

第2号ブロックの点数は37点、その内訳は、微細な剥離痕等が見られ、いわゆる石器と考えられるものが10点、石核？1点、台石？1点、その他が剥片・碎片である。

ブロック外からは、敲石？が1点、その他に剥片・碎片が10点出土している。

### 出土石器の特徴（写真2・3）

竹佐中原遺跡出土石器は、大形で厚手の剥片石器を特徴とした石器群であるといえようか。なお、1点ではあるが粗製石核石器も出土している。出土した石器は全体的に大きく、剥離は粗く、剥片の形も精緻ではないという特徴がある。さらに剥片に顕著な二次加工を施し、石器の形状を整える石器群ではない。剥片に精緻な二次加工を施し石器を製作する後期旧石器時代にみられる特徴的な石器製作技術とは違う点が指摘できようか。

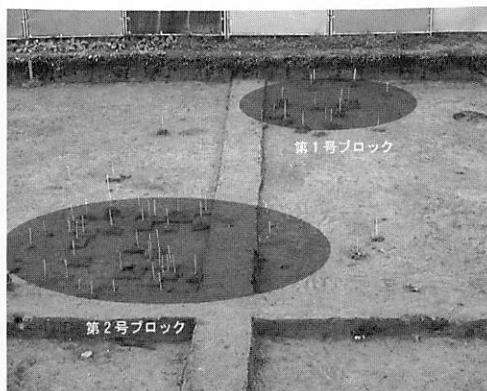


写真1 竹佐中原遺跡 石器出土状況

るが、ATの降灰は、石器群よりも後であると推定されている。

また、本遺跡の土層は、隣接する石子原遺跡のものと同様であるが、石子原遺跡より安定しており、石器の出土層準は正確に捉えられる可能性がある。石器は、黄褐色ローム層上面から25cmの深さまで出土している。

### 石器の出土状況（写真1）

石器の出土点数は、現在まで70点である。それらは約

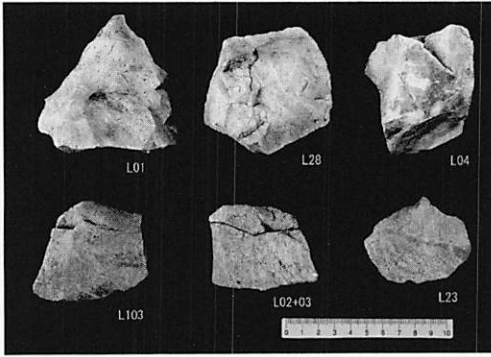


写真2 竹佐中原遺跡 第1号ブロック  
出土石器

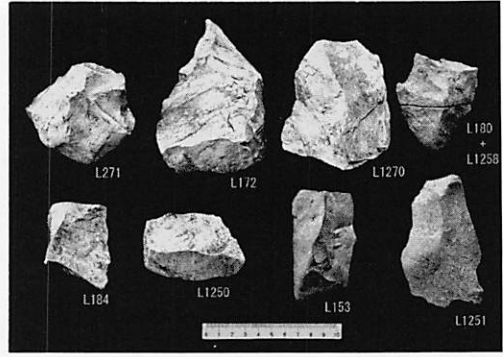


写真3 竹佐中原遺跡 第2号ブロック  
出土石器

また、碎片はほとんど認められない。1～2 cm程度の小剥片は十数点出土しているほか、1 cm以下の碎片は水洗選別で数点可能性のあるものが出土しているが、認定が困難で、検討中である。

石器に使用されている石材について、石材名は、現在検討中である。石器の表面は厚い風化層に包まれていて、新鮮な岩石本来の肌や、岩石の組織、鉱物が見えないためである。ただ遺跡下の礫層もしくは近傍では採取できない石材であり、他の場所からもたらされたものと考えられる。

#### 出土石器群の評価

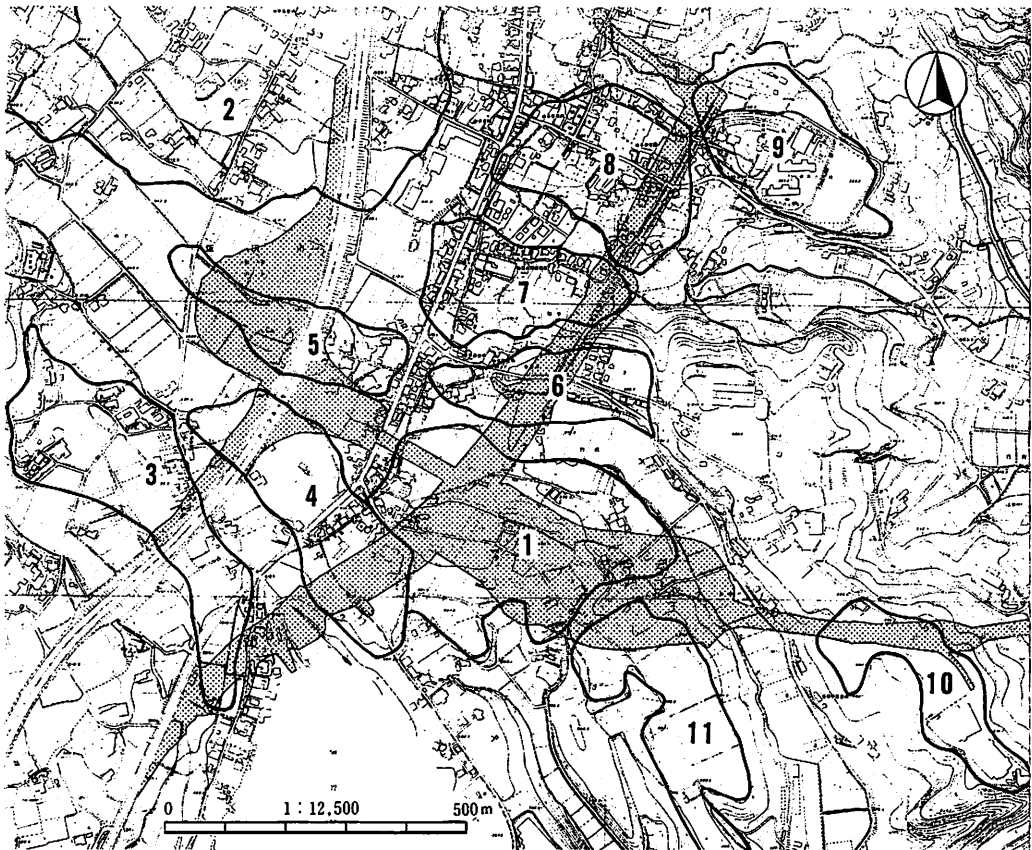
- ① 石器出土地点およびその周辺からの土器等の出土がないことは、他の時代の遺物が混在していないということになり、一時期の純粋な石器群であるといえる。
- ② 石器は、ローム層の土層から発掘されており、この石器群が縄文時代以前、つまり旧石器時代の所産であることは、ほぼ間違いないといえる。
- ③ さらに、石器の特徴からは、旧石器時代の中でも、現在までに発見されている後期旧石器時代ナイフ形石器文化以降(約3万数千年前)の石器群とは違う点が指摘できる。
- ④ 以上のことから、竹佐中原遺跡の石器は、後期旧石器時代ナイフ形石器文化以前の所産である可能性が極めて高いといえ、いわゆる「前・中期旧石器時代」に遡りうる可能性が高い。
- ⑤ 竹佐中原遺跡のある丘陵は広大で、今後も新たな出土地点が確認されることが十分に予想される。複数の地点が確認されれば、いままでほとんど不明であった当該期の人々の行動パターンを探る有力な資料になりうるということが予想される。
- ⑥ 竹佐中原遺跡の北西400 mには、30年前中央自動車道建設に伴って発掘調査をして、旧石器が出土したことで有名な石子原遺跡があり、両遺跡の石器群の比較検討が今後詳細に行われるべきと考える。

## 2) 飯田市山本地区諸遺跡 (第49図)

一般国道474号飯喬道路 (三遠南信自動車道) およびアクセス道路建設に伴う発掘調査を、本年度は5月上旬より進めてきた。竹佐中原遺跡をはじめとした飯田市山本地区の事業用地内の遺跡は11ヶ所を数えるが、遺跡の既存情報が少ないため、トレンチによる試掘調査を5月～7月にかけて行った。その結果に基づき、面的調査を11月5日～12月21日に実施した。試掘調査には大竹、上田があたり、面的調査には若林卓、青木一男、西嶋力があたった。概要は下記の通りである。

辻原遺跡 調査面積900㎡ 検出遺構：縄文時代土坑1基・礫集中1箇所

石子原遺跡に南接する馬背状の尾根上に展開する。尾根筋下方面には竹佐中原遺跡が位置する。旧石器時代の包含層が良好な状況で認められるという試掘成果に基づき、石子原遺跡基本土層IV層上面に市松状のグリッド坑を設定し、手掘りによる調査を行った。石器の出土は認められなかったが、花崗岩質および砂岩質の礫による集中箇所が1ヵ所明らかになり、その性格が次年度の課題となった。



第49図 飯田市山本地区の諸遺跡

1. 竹佐中原遺跡 2. 山本西平遺跡 3. 赤羽原遺跡 4. 辻原遺跡 5. 石子原遺跡 6. 並松遺跡 7. 寺沢遺跡 8. 山本大塚遺跡 9. 白山遺跡 10. 下り松遺跡 11. 森林遺跡

**赤羽原遺跡** 調査面積200㎡ 遺構検出なし

昭和40年代の構造改善事業によって調査地区は壊滅状況であった。当地点は構造改善事業以前も水田であったと聞が、中央道建設と関連したのだろうか。大きく掘り込まれ、50cm以上の客土の上に現水田の床土が20cmほど設定されていた。

**山本西平遺跡** 調査面積800㎡ 検出遺構：近世以降・溝1条 自然流路1箇所

調査地点は、飯田市遺跡分布図に登録される西平遺跡の端部に位置する。現況は構造改善後の水田である。調査によって、構造改善以前の比較的規模の小さい水田面および、石垣区画、地割区画溝が明らかとなった。染付け磁器片の出土がある。当水田面は黄褐色土層面を大きく掘り込んで開発している。掘り込まれている黄褐色土層面には、大量の礫が含まれており、石子原遺跡基本土層IV層を確認することはできなかった。なお、構造改善以前の水田面は、埋没した自然流路上に設営されていた。自然流路内の一部は手掘りトレンチを設定したが、遺物を確認することができなかった。

**山本大塚遺跡** 調査面積1,400㎡ 検出遺構：縄文～近代 土坑・風倒木痕12基、溝1条

調査区中央部に浅谷の押し出し面をもつ台地面である。縄文時代の土坑が数基明らかとなった。他に地割溝が1条台地面を横断する形で確認された。現況の畑地地割とは一致しない。遺物は少ないが、3時期の遺物を確認する。縄文時代、古墳時代、中世以降である。古墳時代の遺物は5世紀代の杯細片1点である。ローリングは受けていない。当該期の遺構は検出していないがその意味は大きい。当山本地区には、横穴式石室導入以前の石子原古墳の存在が当センター等の調査で明らかとなっているが、当遺跡に隣接する山本大塚古墳も当該期に位置することを予察させる。また、周辺に、当該期の遺構を予想するものである。

**並松遺跡** 調査面積200㎡ 検出遺構なし

遺跡の北側部分の斜面部を調査した。縄文土器片、陶磁器片、石鏃、打製石斧を検出したが、南方の丘陵平坦面からの混入と考えられる。

**森林遺跡** 調査面積1,300㎡ 検出遺構なし

遺跡北東部の北に舌状に張り出す台地の調査を行ったが、表土下すぐに混礫土層があらわれ、遺物の包含層はすでに消失していた。

**下り松遺跡** 調査面積5,700㎡ 検出遺構：時期不明竪穴1基、自然流路2条

竹佐中原遺跡とは谷を挟んだ北側の尾根状台地に位置する。三遠南信道用地の中央部から東側を調査したが、検出遺構は上記のとおり。遺物は縄文土器、石器少量を検出したのみである。ただ、滑石製の珧状耳飾が1点検出されている。土器は小破片で正確な時期は不明であるが、繊維を含んでいることから、縄文時代早期末～前期にかけてのものと考えられ、珧状耳飾も当該期にあたりと予想される。

試掘調査では、3箇所において硬化面が検出され、住居貼床と推測されたが、全て酸化鉄の凝集による自然の硬化部分であることが判明した。遺跡南西部では、石器が比較的多く採集されるとのことであり、縄文時代の遺構が展開する可能性が考えられるが、次年度以降の調査となる。



## II 普及・公開活動の概要

### 1 現地説明会

今年度の現地説明会は、発掘調査が実施された11遺跡中5遺跡で行われた。前年度からの継続調査を実施している遺跡では、見学者に埋蔵文化財をより身近に、より具体的に感じてもらうことを目的に、発掘現場の一般公開という新たな手法を試みた。

飯島町丸山遺跡では7月14日（土）に実施し、縄文時代中期の遺構・遺物を公開した。上伊那地域の方々を中心に145名の見学者が訪れた。

信濃町仲町遺跡では8月5日（日）に、同遺跡を隣り合わせて調査している信濃町教育委員会と合同で実施し、旧石器時代から近世までの遺構・遺物を公開した。また、8月7日（火）から8月10日（金）までの期間、時間を限定して発掘現場の一般公開を実施した。地元の方々を中心に、合わせて142名の見学者が訪れた。学校等が夏休み期間中ということもあって、県外からの一般観光客の姿も垣間見られた。

飯田市竹佐中原遺跡では8月26日（日）に実施し、旧石器時代の石器を、その出土状況や調査方法も含めて公開した。「県内最古級の石器出土」などという新聞各紙の報道と、昨年来から社会的関心事となってしまった「前期・中期旧石器捏造事件」の影響もあり、県内外から600名の見学者が訪れた。

更埴市社宮司遺跡では9月9日（日）に実施し、古代の遺構・遺物を公開した。これまで文献や絵画史料でしか知られていなかった木製の「幢」が国内で初めて出土したという報道も相俟って、見学者数は500名を越え、地元の方々を中心に、県外からも多くの方々が訪れた。

飯田市川路大明神原遺跡は調査3年目ということで、今年度は発掘現場の一般公開を10月17日（水）に実施した。平日にも関わらず、地元の熱心な考古学ファンが50名、現地に足を運んだ。



第50図 飯田市竹佐原遺跡での現地説明会



第51図 更埴市社宮司遺跡での現地説明会

## 2 展示会等

今年度も昨年度に引き続き「長野県の遺跡発掘2001」と銘打った速報展を主体とし、その他、小規模な企画展を3会場で実施した。速報展については、県内市町村教育委員会、長野県立歴史館の協力を得て実施しているもので、展示会という一つの目的のために形成された三者の協力関係は、平成11年度から継続して展開している。

### 1) 平成13年度長野県埋蔵文化財センター速報展「長野県の遺跡発掘2001」

長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、県内市町村教育委員会の三者が協力し合い、各機関が所蔵する埋蔵文化財資料（考古資料）を一堂に会することで、県民に広く早くかつ簡便に、それぞれの地域、さらには長野県の歴史や埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的とした。長野県立歴史館企画展示室を会場とし、期間は3月16日（土）から5月12日（日）までの開催である。また、展示資料を大所高所から、より深く理解してもらうことを目的とした後述の講演会を展示期間中に設定した。なお、速報展開催前の2月3日（日）から2月11日（月）まで長野県県民文化会館展示ホールで、2月25日（月）から3月1日（金）まで更埴市民ギャラリーにて今回の速報展のプレイベントとして位置付けたパネル展を開催した。展示資料は以下の通りである。

なお、平成12年度速報展「長野県の遺跡発掘2000」は昨年の3月17日（土）から5月13日（日）までの開催で、11,355人の来館者があった。また、この速報展に伴って4月22日（日）に「最古の貨幣－富本銭から信濃の歴史をよむ」と題した講演会を実施した。財団法人八十二文化財研究所の松村恵司氏、大阪市立大学の榮原永遠男氏、飯田市教育委員会の小林正春氏を講師に招き、歴史の根幹に関わる難解な話題を、わかりやすく、また興味深くお話しいただいた。聴講者は140名であった。



第52図 平成12年度速報展に伴う講演会

〔当センター保管資料〕

信濃町：仲町遺跡・吹野原A遺跡、更埴市：社宮司遺跡、浅科村：駒込遺跡、茅野市：馬捨場遺跡・聖石遺跡・長峯遺跡、箕輪町：箕輪遺跡、飯島町：丸山遺跡、飯田市：竹佐中原遺跡・川路大明神原遺跡、当センターの業務内容紹介パネル

〔市町村教育委員会保管資料〕

更埴市：倉科將軍塚古墳、佐久市：八風山遺跡群・蛇塚古墳、松本市：深志城跡・松本城下町遺跡、穂高町：他谷遺跡、朝日村：熊久保遺跡、山形村：淀の内遺跡、大桑村：万場



遺跡・大野遺跡、上松町：吉野遺跡群、下諏訪町：殿村東照寺遺跡、南箕輪村：久保上ノ平遺跡、飯田市：中村中平遺跡

## 2) JR篠ノ井駅自由通路での企画展「卑弥呼が暮らした時代の長野」

篠ノ井駅並びに自由通路を利用する周辺住民及び通勤・通学者を対象に、長野市篠ノ井に所在する当センターの業務内容を、また遺跡や埋蔵文化財、地域の歴史に対する理解を深めてもらうことを目的として実施した。展示資料は、これまで当センターで作成・使用した長野市内の遺跡のパネル資料を、テーマに則して再度利用した。1月22日（火）から3月15日（金）まで開催した。展示資料は、長野市松原遺跡・篠ノ井遺跡群・川田条里遺跡及び当センターの業務内容を紹介した文字・写真パネルである。



第53図 JR篠ノ井駅自由通路での企画展

## 3) 長野県庁1階ロビーでの企画展「長野県の遺跡」

長野県教育委員会文化財生涯学習課の事業に協力し、行政関係者や県庁を訪れる一般県民を対象に、当センター及び埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的とした。今年度、当センターで整理作業を実施した遺跡の遺物及び写真パネルを中心に、当センターの業務内容を示す刊行物やパネル等の展示で、2月12日（火）から2月22日（金）まで実施した。展示資料は、大町市山の神遺跡・茅野市聖石遺跡・箕輪町箕輪遺跡の出土資料及び写真パネルと当センターの業務内容紹介パネル及び刊行物である。

## 4) 長野市立昭和小学校PTAバザー・ふれあい広場での展示会

昭和小学校PTAから要請があり実現した展示会で、児童及びその保護者を対象に、土器や石器などの考古資料を体感し、埋蔵文化財や地域の歴史に対して興味を抱いてもらうことを目的とした。普及公開活動の新たな指針の一つとして、今後も取り組んでいきたいと考えている。

## 5) 平成13年度速報展に伴う講演会

昨年度に引き続き、当センターと長野県立歴史館、財団法人八十二文化財団の三者主催による講演会を、平成14年3月17日（日）に長野県立歴史館講堂にて開催した。今年度、当センターで調査した信濃町仲町遺跡・飯田市竹佐中原遺跡からは後期旧石器時代以前に属すると考えられる石器群が出土した。速報展での展示とあわせて、それぞれの遺跡の調査担当者からの事例報告、さらに、これらの石器群の歴史的・学問的意義について、日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会委員長で明治大学教授の戸沢充則先生に講演をいただいた。

講演会テーマ：日本列島に前期・中期旧石器時代人の足跡は残されていたか？

- ・事例報告：1. 信濃町仲町遺跡 鶴田典昭      2. 飯田市竹佐中原遺跡 大竹憲昭
- ・講演：「旧石器研究は生きている」      明治大学教授 戸沢充則

### 3 指導・研究会・学習会

期 日	講 師	指導内容
13/ 5 /17	茅野市永明中学・小口徹教諭	馬捨場遺跡の地形・地質について
13/ 7 /13	大谷大学・藤沢典彦教授 元興寺文化財研究所・佐藤亜聖氏	社宮司遺跡六角木幢について
13/ 7 /24	沼津工業高等専門学校・望月明教授	馬捨場遺跡出土黒曜石の蛍光X線分析
13/ 8 /10	明治大学・戸沢充則教授	竹佐中原遺跡の調査について
13/ 8 /22 11/ 8、12/ 7	地質学者・松島信幸氏 寺平宏氏	竹佐中原遺跡の地質について
13/ 8 /28	地質学者・松島信幸氏、寺平宏氏	丸山遺跡の地質について
13/ 9 / 7 13/10/24 13/12/18 14/ 3 /18	竹佐中原遺跡調査指導委員会 明治大学・戸沢充則教授 東京大学・佐藤宏之助教授 東北学院大学・佐川正敏教授 地質学者・松島信幸氏 考古学者・神村透氏	竹佐中原遺跡の調査について
13/ 9 /21	文化庁・岡村道雄主任調査官 明治大学・戸沢充則教授	竹佐中原遺跡の調査について
13/11/ 1	明治大学・安蒜政雄教授 東京大学・佐藤宏之助教授	仲町遺跡の石器について
13/11/ 2	東京都立大学・小野昭教授	仲町遺跡の石器について
13/11/14	愛知県陶磁史料館・井上喜久男氏	社宮司遺跡六角木幢について
13/12/ 5～ 6	歴史民俗博物館永嶋正春助教授	聖石遺跡等の漆・赤色顔料について

### 4 刊行物

「広域営農団地農道整備事業埋蔵文化財発掘調査報告書－馬捨場遺跡」

「緊急地方道整備事業埋蔵文化財発掘調査報告書－上五明遺跡」

「長野県埋蔵文化財センター年報18」

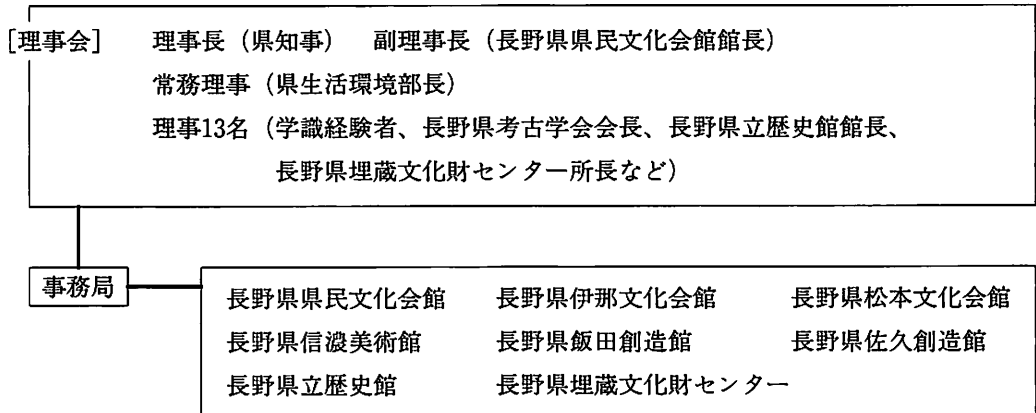
このほか当センターの内部情報紙として調査速報を4回発行した。

### III 機構・事業の概要

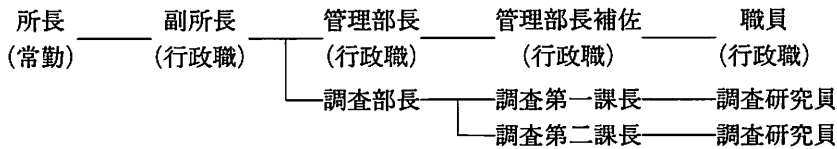
#### 1 機構

##### (1) 組織

###### ① 長野県文化振興事業団組織



###### ② 長野県埋蔵文化財センター組織図



##### (2) 所在地

更埴市屋代清水260-6

篠ノ井整理棟 長野市篠ノ井布施高田963-4

#### 2 事業

##### (1) 調査事業

###### ア 調査遺跡

国道18号野尻バイパス関係	信濃町内 1 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
国道18号上田篠ノ井バイパス関係	更埴市内 5 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
国営アルプスあづみの公園関係	大町市内 2 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
国道474号飯喬道路関係	飯田市内 9 遺跡	国土交通省中部地方整備局の委託
中部横断自動車道関係	小諸市内 1 遺跡	日本道路公団東京建設局の委託
県単道路改良事業関係	信濃町内 1 遺跡	長野県土木部長野建設事務所の委託
県道長野上田線バイパス関係	上山田町 1 遺跡	長野県土木部更埴建設事務所の委託

国道153号伊那バイパス関係 箕輪町内1遺跡 長野県土木部伊那建設事務所の委託  
 畑地帯総合整備事業関係 南牧村内1遺跡 長野県佐久地方事務所・南牧村の委託  
 広域営農団地農道整備事業関係 茅野市内1遺跡 長野県諏訪地方事務所の委託  
 県単農道整備事業関係 飯島町内1遺跡 長野県上伊那地方事務所の委託

**イ 整理事業**

国営アルプスあづみの公園関係 大町市内3遺跡 国土交通省関東地方整備局の委託  
 県単道路改良事業関係 信濃町内1遺跡 長野県土木部長野建設事務所の委託  
 緊急地方道整備関係 坂城町内1遺跡 長野県土木部更埴建設事務所の委託  
 担い手育成基盤整備事業関係 茅野市内2遺跡 長野県諏訪地方事務所・茅野市の委託  
 広域営農団地農道整備事業関係 茅野市内1遺跡 長野県諏訪地方事務所の委託

**ウ 保存処理事業**

松本市の委託

**エ 職員派遣**

要請を受け、調査課職員を原村に1名、木曾広域連合に2名派遣。

**(2) 事業費**

国道18号野尻バイパス関係：256,014千円、国道18号上田篠ノ井バイパス関係：125,537千円、国営アルプスあづみの公園関係：25,043千円、国道474号飯喬道路関係：158,104千円、中部横断自動車道関係：10,881千円、県単道路改良事業関係：17,587千円、県道長野上田線バイパス関係：3,519千円、国道153号伊那バイパス関係：68,206千円、国道改良事業関係：2,184千円、畑地帯総合整備事業関係：2,949千円、広域営農団地農道整備事業関係：25,534千円、県単農道整備事業関係：35,743千円、緊急地方道整備関係：917千円、担い手育成基盤整備事業関係：41,917千円、松本市内出土遺物保存処理事業：6,610千円、研修事業：651千円、普及啓発事業：400千円

**(3) 普及活動 (31ページ参照)**

**(4) 職員研修**

**ア 講師招聘および来所による指導・講習会等 (34ページ参照)**

**イ 学会関係研究会・研修会・講演会**

期 日	発表者	内 容
13/9/16	百瀬長秀	「縄文人の地域交流」上田国分寺資料館市民講座
13/11/10	大竹憲昭	「黒曜石の流通と中部高地の原産地」県黒曜石シンポジウム
13/11/11	川崎 保	「珠状耳飾りについて」上郷考古博物館市民講座
13/11/18	百瀬長秀	「中部高地の土製耳飾り」上郷考古博物館市民講座
13/12/13	大竹憲昭	「竹佐中原遺跡と長野県の旧石器」飯田市誌編纂室
13/12/22	大竹憲昭	「竹佐中原遺跡の概要」東北日本の旧石器文化を語る会
14/1/26~27	鶴田典昭 河西克三 谷 和隆 大竹憲昭	「各遺跡の事例報告」長野県旧石器文化研究交流会

14/1/26～27	町田勝則	「信州北部における農具と使用痕」使用痕研究会
14/2/9	大竹憲昭	「竹佐中原遺跡の調査概要」東海石器研究会
14/2/22	大竹憲昭	「飯田市竹佐中原遺跡の旧石器」三遠南信道建設促進期成同盟会
14/3/10	大竹憲昭	「竹佐中原遺跡と長野県の旧石器」飯田市考古博物館
14/3/17	鶴田典昭 大竹憲昭	「仲町遺跡の調査概要」当センター速報展記念講演会 「竹佐中原遺跡の調査概要」
期 日	参加者	内 容
13/6/16ほか	寺内隆夫	火炎土器様式圏の研究（新潟県立歴史博物館）
13/11/23～25	土屋 積	他古墳時代東国の渡来系文化の受容と展開（共同研究会）
そのほか、各種学会・研究会・シンポジウムなどへの参加多数		

#### ウ 県外博物館・埋文センター・遺跡等視察及び資料調査

期 日	視察・調査他	参加者
13/7/4～6	高山市教育委員会、宮川村教育委員会等	川崎 保
13/7/11～13	青森県三内丸山遺跡対策室等	柳沢 亮
13/9/18～20	米子市教育委員会、島根県埋蔵文化財センター等	町田勝則
13/10/2～3	横浜市ふるさと財団、かながわ考古学財団	川崎 保、柳沢 亮
14/1/30～1	名古屋市立博物館、東海市松崎貝塚	藤原直人
14/2/13～15	秋田県立博物館、岩手県立博物館、福島県立博物館	鶴田典昭
14/2/19～21	山梨県立博物館、あきる野市教育委員会	上田典男
14/2/25～27	九州歴史資料館、下関考古館、防府市教育委員会	上田 真
そのほか、各地の博物館・研究機関などの視察・調査など多数		

#### エ 全埋文協などへの参加

期 日	会議名	開催地	参加者
13/4/19	全埋文協中部北陸ブロック連絡会	岐阜市	小林秀夫
13/6/7～8	第21回全埋文協総会	徳島市	小林秀夫、田中照幸
13/9/29	埋蔵文化財行政研究会	大宮市	町田勝則
13/10/4～5	全埋文協研修会	盛岡市	小林秀夫、長浦忠雄、土屋 積
13/10/11～12	全埋文協中部北陸ブロック コンピューター等研究委員会	静岡市	大竹憲昭、谷和隆
13/11/17	埋蔵文化財行政研究会	東京都	川崎 保、町田勝則
13/10/25～26	関東甲信越静岡地区埋蔵文化財担当者会	伊奈町	寺内隆夫
13/11/21～22	関東甲信越静岡埋蔵文化財担当者研修会	千葉市	西 香子、寺内貴美子
13/11/1～2	全埋文協中部北陸ブロック連絡協議会	金沢市	百瀬長秀、荒井恵美子

オ 県内市町村および関係機関への協力・指導等

期 日	市町村等	協力・指導内容	協力者
13/ 8 /23	長野市	史跡大室古墳群整備委員会	小林秀夫
13/11/17~19	中野市	山田家土蔵調査と敷地内整備	伊藤友久
14/ 2 /21~22	飯田市	中村中平遺跡出土遺物	百瀬長秀

カ 平成13年度市町村埋蔵文化財担当者発掘技術研修会

－長野県教育委員会・長野県立歴史館と共催

1	日時	平成13年11月20日（火）、11時00分～16時00分	
2	会場	更埴市社宮寺遺跡、当センター篠ノ井整理棟	
3	内容		
	(1) 現地研修	社宮寺遺跡の概要	長野県埋文センター
	(2) 講演	「官衙的要素をもつ遺跡について」	桐原 健
	(3) 事例報告	①飯田市恒川遺跡群	飯田市教育委員会
		②岡谷市榎垣外遺跡	岡谷市教育委員会
		③更埴市社宮寺遺跡	更埴市教育委員会
4	参加者	40名	

キ 資料貸し出し

期 間	遺 跡	貸し出し資料	貸出先・目的
13/ 6 /25～ 7 /25	箕輪	弥生土器、土師器、石器等	箕輪町郷土博物館企画展
13/ 6 /19～ 7 /31	松原他	遺物写真等	大阪府立弥生博物館企画展
13/10/30～12/28	聖石他	翡翠製品	青森県立郷土館企画展
そのほか写真等の貸し出し多数			

ク 同和研修

期 日	研修名	会 場	参加者
13/12/ 7	部落解放県民大会	長野県民文化会館	長浦忠雄
そのほか、14/ 2 / 5開催の県職員同和問題研修会資料を全職員に配布した。			



平成13年度役員及び職員

理事・所長	深瀬弘夫（7月1日より）					
副所長	春日光雄					
管理部長	春日光雄（兼）			調査部長	小林秀夫	
管理部長補佐	田中照幸					
職員	長浦忠雄（主任） 荒井恵美子（主事）					
調査課長	百瀬長秀 土屋 積					
調査研究員	青木一男	市川桂子	市川隆之	伊藤友久	上田典男	上田 真
	宇賀神誠司	白居直之	白田広之	大竹憲昭	河西克造	川崎 保
	桜井秀雄	田中正治郎	谷 和隆	鶴田典昭	寺内貴美子	寺内隆夫
	賛田 明	西 香子	西嶋 力	西山克巳	広田和穂	藤原直人
	町田勝則	柳沢 亮	若林 卓			
調査員	中島英子 西嶋洋子 山崎まゆみ					

長野県埋蔵文化財センター年報18 2001

発行日 平成14年3月30日

編集発行 財団法人長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒387-0007 更埴市屋代清水260-6

TEL 026-274-3891

印刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野市西和田470

TEL 026-243-2105